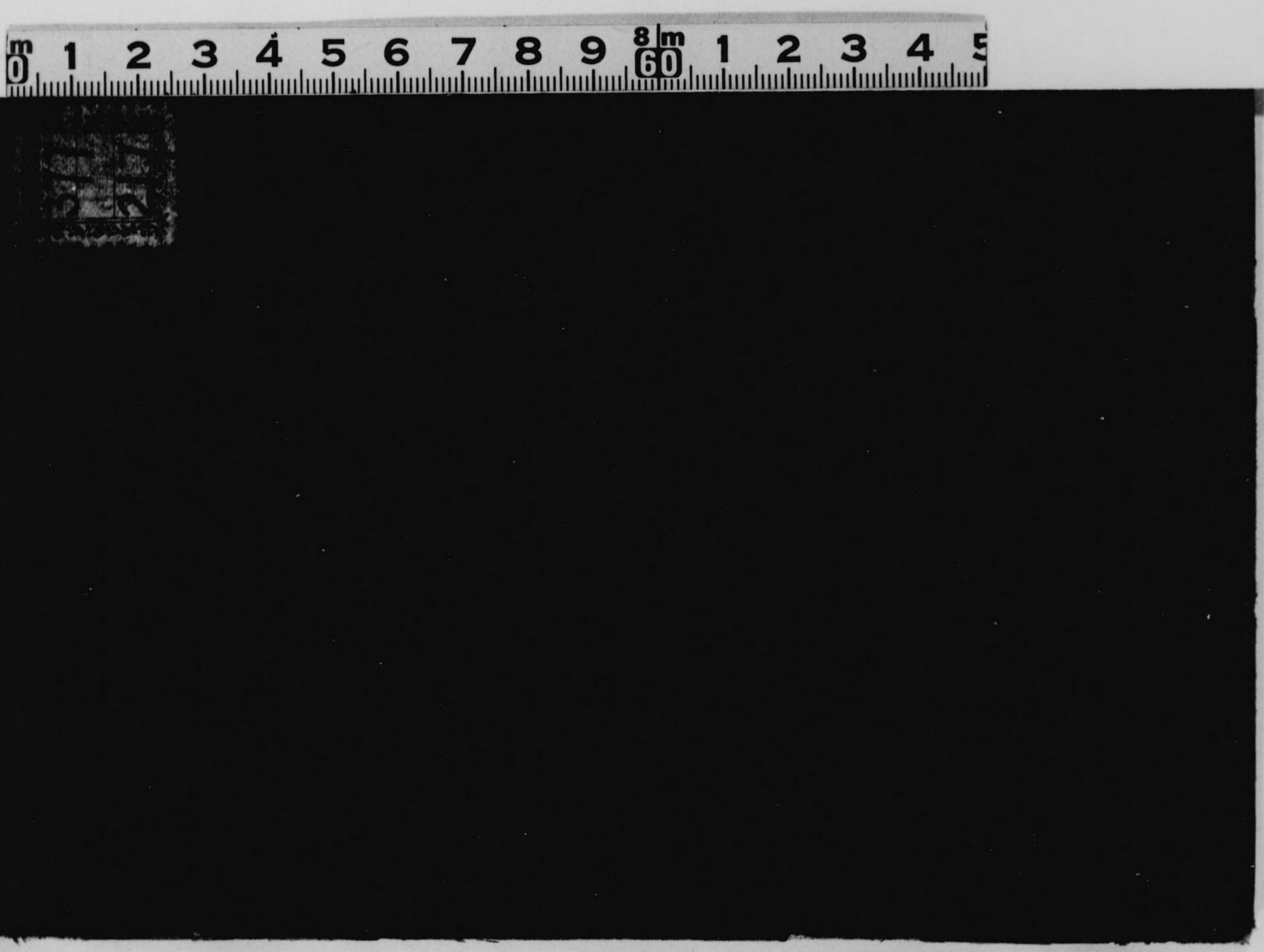
始



From the painting by Ed. Grützner. *Photo: Berlin Photographic Co., London.*

Falstaff on the Battlefield ("Henry IV."—Part First).

Falstaff. "'Sblood, 'twas time to counterfeit, or that hot termagant Scot had paid me scot and lot too."

Act V., Sc. IV.

377-217

ヘンリー四世

第一部

坪内逍遥譯

大正
8. 9. 16
内交

緒言

第一部と第二部とより成れる此作は、年代的にも事件的にも相聯絡せる英國史劇として、前は「リチャード二世」に、後は「ヘンリー五世」に密接す。作者は、例によつて、其頃正史視せられたりし事實を――例のホリンシェッドの英國史を――ほゞ忠實に辿りて脚色せり。隨つて、右の四部を合せて、所謂四部曲(テトラジー)と見做すに及んで、始めて完備したる叙事詩劇と稱するを得べく、少くとも英國史蹟に疎遠なる者に取り

ては、之を一部宛に引離すことは、多少事件の因縁を曖昧ならしめて、作の感興を減少する所以なるべき歟。

「ヘンリー四世」の第一部の世に出でしは一五九八年の四折本を最初とすれども、其書下されしは一五九七年よりは晩からじと推定せらる。すなはち劇作家としての沙翁の技が漸く圓熟の域に入りたる三十三歳頃の作なり。史劇の「リチャード二世」、「ジョン王」、夢幻喜劇の「眞夏の夜の夢」喜劇の「ヱニスの商人」などは、ほゞ同期の作なるべし。此期以前の諸作には、或は其作意、修辭に摸倣の痕跡の歴々たるものある歟、或は如何にも習作らしき蕪雜生硬の失あ

る歟、其孰れかを免れざりき。然るに此作の成れる前後に至りては、作者の舞臺技巧著しく進み、着想も際立ちて大人び、措辭も目覺しく洗練され、就中性格描寫に於て、他の追隨を許さゞる底の特殊の天才を發揮し來れり。正史的の雄大壯烈なる悲劇事件の間に極めて滑稽なる風俗畫式の市井的寫生圖を粧點して、英雄的情趣と道戯氣分とを大膽に錯交せしめながら、尙何等の不調和をも感ぜしめざるが如きは、此「ヘンリー四世」以前には未だ曾て見る能はざりし所の新生面たり。又、彼の韵語と散文との自在なる使ひ分けは、沙翁が其中年以後、最も得意とせ

し所なるが、之を史劇に適用せしは、實に此作を以て始めとなすと云ふ。

沙翁の英國史劇の傑作としては、コールリッヂは「リチャード二世」を推稱し、或他の批評家らは「ジョン王」を取り、興行師らは、其壯觀的(スペクタキユラル)なるの故に、「ヘンリー八世」を取らんとす。脚色の比較的引締りで、外題役(タイトルロール)の主要人物が、全曲を一貫し、やゝ消極的ながら、劇學者らの所謂悲劇の主人公らしき働きを做し、隨つて心理上、倫理哲學上などより觀て感興多きを取らば、「リチャード二世」は正に其選に入るべきものならん。又、其主要人物の描寫の比較的最も多樣にして、

且つ最も手强く、觀衆を悲喜愛憎せしむる舞臺的效果に於て最も優秀に、脚色將た散漫ならざるを得たる點より いはゞ、「ジョン王」こそ彼れが英國史劇中の白眉なるべけれ。然れども若し其劇としての結構の今の所謂劇の如くならざるは、當時の劇壇の需要に應じたるに外ならざる所以を理解し、專ら其詩的創作(ポエチカルクリエーション)の不易なる部分の價値より觀ん歟、沙翁の英國史劇六種、九部の中、「ヘンリー四世」前後二部のそれに優るものは、他にあらずといふも過言にあらじ。此作に現はるゝフォールスタッフの性格の如きは、眞に古今東西に比類を見出だす能はざる假作人物にして、驚

異すべき沙翁が創作（クリエーション）としては、其自然味の豊かなる點に於て、優にハムレット、クレオパトラを凌駕す。其然る所以は、近世の最も過激なる沙翁貶辱者と雖も、――ショー、トルストイらと雖も――此一性格の優秀を認めざるを得ざりしにより て知るべきなり。飄輕（へうきん）なる大俗物、猿利口の肉慾餓鬼、極（ごく）樂蜻蛉（とんぼ）の後生（ごしやう）樂（らく）、其求むる所は只利益、只愉快、當意卽妙の頓智に富み、臨機應變の辯才に長じ、平時も、戰時も、口に駄洒落を絶つことなき、讀んで字の如き醉生夢死の權化なり。詼諧と虛言と大言と鐵面皮と尊大と、此五つを運用して、不思議にも一種の品位を保ち、甚しく臆病なる

にも拘らず、時にドン・キホーテの如く、卑劣を極むれども、到底憎まるゝ能はざる一種の愛嬌を具ふ。沙翁の創造したる性格中の最とせられたるは故あり。其他、策士肌の老政治家としてのヘンリー四世、豪放磊落にして直情逕行なる熱拍車（ホツトスパー）、暗に作者の少年時の面影を聯想せしむる放逸なる王世子ハーリーの如き、孰れも不易の製作たり。

此作の主なる材料のホリンシェッドの「英國史（クロニクル）」より出でたることは前に既に言ひたるが、右の「英國史」は一五九七年の刊行なれば、沙翁が如何に總ての新刊書類に對して敏感な

りしかの一證とも見るべき點に面白味あり。もつとも沙翁の此作以前に、多少相似たる一作なかりしにはあらず。そは題して「アジンコールトの名譽の戰爭を含めるヘンリー五世王の名高き勝戰」と表題したる一脚本是れなり。然れども沙翁が此作より得たる所は、僅にヘンリー五世の其王子たりし間の放逸無賴なる生活に關する傳說を劇化せる部分、卽ち彼れと追剝との關係、ロンドン市のイーストチープ街なる或酒亭に彼れの出入せし事、彼れの放逸仲間としてのガッヅヒル及びフォールスタッフの前身士爵ジョン・オールドカッスルの名前ぐらゐに止まれり。其他は、假令多少相觸る

る所あるも、そは、要するに、同一傳說に原きて成れる作の自然の結果たるに過ぎず。

「ヘンリー四世」の書下しには、フォールスタッフの役はオールドカッスルの役なりし事、種々の證據ありて、明かなり。何故に役名を改むるに至りしかといふに、士爵ジョン・オールドカッスルはもと實在の人物にして、英國に於ける宗教改革の事に携はり、爲に寃死を遂げ、一方には尊敬せられたりし上に、其子孫尙殘り居りしかば、其祖の卑怯陋劣なる喜劇的人物として劇化せらるゝことを黨派心の所爲として憤り、其撤回を手强く要求し來りし結果なるが如し。此作の

「第二部」の閉場詞（エピロッグ）の中に曰ふ、「フォールスタッフは、佛蘭西へ參りまして、大汗をかいて命を失ひますさうです。もつとも御評判次第で、其以前にも隨分絶命に及ぶでございませうが。現にオールドカッスルの如きは殉教者になつてしまひましたやうなわけで、此れと彼れとは全く別人でございますから」と。オールドカッスルの子孫よりの抗議の一時かしましかりしを想像するに足る。

上演史の上から言へば、此作は、作者生存の當時に在つては、「ハムレット」、「オセロー」等に次いで、最も人氣ありし脚本なり。第十七世紀の末までに、此作が、四折本（クオート）として八種、二折本（フォリオ）として四種までも刊行されたりしを以ても、ほゞ其歡迎の度を推することを得。按ふに、其主題が國威光揚時代の國民的好尚に適切なる外國克服の事蹟たりし事――其主人物たるヘンリー五世の、恰も我義經、爲朝もしくは秀吉などに比すべき國家的（ナショナル）英雄（ヒーロー）たりし事――其青年時代の放縱生活に關する有名なる傳説が、極めて愉快に劇化されて、歴史的感興と現實的寫生味とが最も巧妙に調和されたりし事――一轍短慮なる駄拍車（ホットスパー）、飄輕（ふうきん）にして捉（つかま）へ所の無き放蕩漢フォールスタッフ、鼻赤のバードルフ、威張り屋の

ビートー、饒舌の女主(おかみ)、俗才子の判事シャロウなどの如き、常に普通の芝居好きに喜ばるべき諸性格の輩出——似せ山賊の活動、同志打の滑稽、酒亭に於ける自墮落生活、駄洒落問答のをかしみ、それとは直反對の激越壯烈なる決戰場の光景等が、其嗜好に於て、我德川期の江戸市民に類したりし當時のロンドン公衆の各階級に喜ばれたりしに因るならん。

「ヘンリー四世」の第一部が始めて地球座(グローブ・シヤター)にて、一五九七年に上演されし時には、ジョン・ロキンといふがフォールスタッフを勤めたりき。例の痩せて丈(たけ)高かりし生座俳優リチャード・バーベ

ージは、其際多分王子ヘンリーに扮したるべく、又熱拍車(ホットスパー)の役はジョセフ・テーラーが勤めたるならんと推測せらる。ロキンは、其後も引續きフォールスタッフを其持役となして好評を博したりしが、革命以後、ピューリタン教徒が國政を掌り、一切の興行物を禁止するに及びて、俳優を廢業し、ブレントフォードの地に退隱して旅館を營み、傍ら酒を賣り、時に旅客の宴席に侍りて、得意のフォールスタッフ役の白(せりふ)を誦しなどしてその興を幇けたりき。彼れは復辟期(リストレーション)までも生存し、時の名優ベッタートンに古き英國劇の種々の型を傳授し、且つ沙翁より直接に教へられたる劇の秘訣をも語りたりと

云ふ。

ロキンに次ぐ古きフォールスタッフ役者は、カートラインといふ者なり。彼れはホルボオンの一書肆の主人なりきといふ。其後、ルーシー、ベッタートン、ベーカー、ボエル、クインら皆相ついで名あり。

十九世紀に入りては、「第一部」の上演は、一八四六年のサドラース・ウェルズに於けるホエルプスのそれを最初とし、一八四九年のを第二次とす。フォールスタッフの役はホエルプス之を自ら演じたり。彼れは一八五三年に同じくサドラース・ウェルスにて、「第二部」をも上演し、おのれは王と判事シャロウとを勤め、ジョールジ・バーレットをしてフォールスタッフを勤めしめき。一八六九年には、マンチェスターにてカルエルトの復演(リヴィヴル)あり。カルエルトはフォールスタッフに扮したり。

米國にても、十八世紀の後半以來、屢第一部をも第二部をも上演し、その都度相當に評判となれるフォールスタッフを出だせり。一八七一年に死せしハッケット、一八六九年に始めて第一部のフォールスタッフを勤めしヘンリー・ジャックの如きは其錚々たるものなりきと云ふ。

上に記せる如く、此作は、前は「リチャード二世」に、後は「ヘンリー

五世」に接續せしめらるゝに及びて、始めて完本ともなる史劇なれば、其背景となれる史實其者も、リチャード二世王紀よりヘンリー五世王紀に亙れること論なし。讀者の參考に便せんため、左に史蹟の大要を叙す。

紀元後一三七七年英國王エドワード三世(エドワード)歿して其嫡孫リチャード二世(リチャード)繼げり。リチャードは有名なる黒太子(ブラックプリンス)の男にして、少時には屢〻豪邁の氣象を現し、父祖の英風ありとして、貴族及び平民の信望を博したりしが、長ずるに從ひて漸く酒色に親しみ、奢侈を好み、多くの小人を擯幸せしかば、國政甚しく亂れ、先づ大いに貴族の反感を招けり。王に叔仲伯季あり、季父(すゑのをぢ)グロースター公トマス最も名望あり。貴族ら公を推して黨首となし、一三八七年、議會の決議を經て改革を斷行し、王の嬖臣らを誅戮すると同時に王をして其大權を新任の攝政グロースター公に讓らしめたり。然れども王は一年有半の蟄伏の後、猛然起ちてグロースター及び其黨與より成れる内閣を覆し、更に叛逆罪を名として、公を佛國カレーに幽し、後、人をして竊かに之を殺さしめき。

以上は「リチャード二世」に脚色せられたる事件以前の史蹟なり。

政權を復して後、王はますゝ無道の行ひ多く、日夜宴樂に耽り、財用に窮するの餘り、屢〻口實を設けて或は貴族の領地を奪ひ、或は民財を沒收せり。一三九八年王の仲父(つぎのをぢ)ランカスター公ジョン(ガント)獲人の子ヘンリー・ボリングブロックが事を以てノオフォルク公トマス・モウブレーと爭議を釀し、公式の決鬪によつて其正邪を明かにせんとするや、王、一旦は之を許しながら、突然不當の罪名を附して二人を國外に放逐せり。而して其翌年ランカスター公の逝るや、ヘンリーの滯外中なるを奇貨として悉く其采邑を沒收せり。是に於て、ヘンリーは、佛のブルターニュ公の援け

を借り、父の遺領を受くるを名として兵を起し、王が愛圖征討のために不在なるを窺ひて、英國に上陸せしが、聯て王に快からざるノオサンバランドの領主パーシー家の一族を始めとしてヘンリーに加擔する者多く、剩へ王の留守を預りをりし王の伯父ヨオク公エドマンドまでも叛軍に與するに至りしかば、リチャード二世は窮困の極、フリント城に於てヘンリーの手に落ち、遂に迫られて位を彼れに讓りぬ。後幾くもなく、王は其幽所に於て弑せられしかば、所謂藩木朝の正系は爰に絶えて、爾來ランカスター家の世となりぬ。

以上を「リチャード二世」の骨子となれる史實とす。

一三九九年リチャード二世の廢せらるゝやヘンリー・ボリングブロック王位を繼承してヘンリー四世と稱したり。王は好運にして容易に王冠を得たりきと雖も、其境遇は決して羨むべきものにあらざりき。其在位の間は殆ど寧日無き程に叛亂絶えず、種々の陰謀相次いで起りたり。

王は之を鎮壓するために日夜身神を過勞し、其晩年には全く安眠する能はざるに至れり。王の最も恐れたりしは其叔父クラレンス公ライオネルの遺子エドマンド・モオチマーなりき。然るに、當時の王位繼承例によれば、モオチマーの權利は王のそれに優りたればなり。次に王の憚りしはノオサンバランド伯の一門なりき。こは、彼の北條氏の一族が頼朝に於けるが如き義理合を有したると同時に、當年の秀衡一門に比して優るとも劣らざる北方の强族たりし故なり。然るに此二大强敵は、ウエールスの豪族オーエン・グレンダワー及びスコットランドの驍將、伯ドーグラスと結託して、叛旗を翻すに至りたり。幸ひにして叛軍の計議合期せずして、ドーグラスとノオサンバランドの嫡子ヘンリー熱拍車のみが先づ出陣し、ノオサンバランドもグレンダワーも未だ兵を進むるに及ばざるの時、王の全軍は殺到し、一四〇三年七月二十一日シュリユースベリー原に於ける一戰に於て、一擊に叛軍を敗り、敵將熱拍車を討取れり。此時

ドーグラスは、單騎王を附け覘ひ、王に假裝せる影武者數人を殺せしが、遂に力盡きて捕虜となりぬ。

以上を「ヘンリー四世」第一部の史要とす。

王は舊恩を思ひて、伯ノオサンバランドを誅せんとはせざりき。然るに彼れは一旦赦されて後、更に叛きて成らず、遂に國外に走りて殺されたり。グレンダワーも亦屢〻戰つて屢〻敗れ、同じく外國に放浪して其終る所を知らず。ヨオクの大監督スクロープ、伯トマス・モウブレーらも亦叛を謀りしが、孰れも功を成す能はざりき。王の世子ウェールス公ヘンリーは、シュリュースベリーの戰ひには初陣として參與し、グレンダワーの征討には其總督として出陣せり。英邁勇敢にして善く兵を用ひ、後に王位を繼承するに及んでは、エドワード三世以後の英主を以て聞えたりしが、其年少時代には、放縱不羈、毎に惡友を近づけて陋巷惡所に出入し、流連荒亡し、時に暴橫の振舞ありき。或時其惡友の一人、公道に

出で旅人を脅して財を奪ひし科によりて捕へられ、當時硬直の聞えありし判事がスコインの審問を受けたり　之を聞ける王子ヘンリーは、直に法廷に闖入し、手强くガスコインに其友の放免を迫りたり。然れども判官は頑として應ぜざりしかば、王子は激怒して無法にも拳を以てガスコインを打てり。ガスコインは、嚴然として、是れ職權上假借すべからざるの罪なりと做して、卽座に王子を捕へて獄に下せり。既にして王子も亦自ら其罪を覺り、甘んじて刑に伏しぬ。王ヘンリー四世斯くと傳へ聞きて曰く「あゝ朕は幸ひなる哉、剛毅にして法を枉げざるの臣あり。又國法を重んじて甘んじて罪に伏する子あり」と。

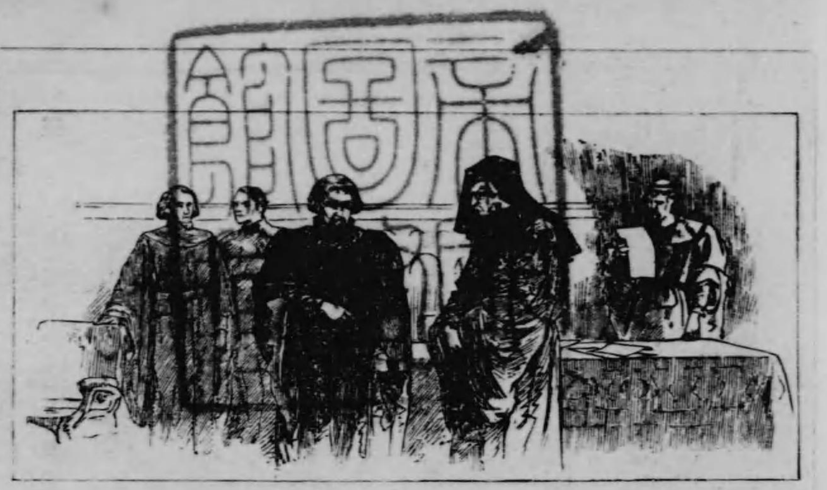
ヘンリー四世には、卒中の持病ありしが、晩年に至りては、其發作頻りにして、其都度、人事を辨ぜざりき。其頃は王の猜疑心絶頂に達し、常に簒奪者の出でん事を恐れて安眠を得ず、偶〻眠る時も、必ず王冠を枕頭に置くを例としたり。一日、王例の病ひを發して昏倒す、端な

く其室に入り來りし王子ヘンリーは斯くと見て王既に死せりと思ひ、つと王冠を取りて室外に去りぬ。既にして王は我れに復り、王冠のあらざるを見て驚き、左右に問ひ、王子の取り去りしを知るに及びて歎息し「あゝ兒よ、予自身の王冠に於ける權利すら其實空し。汝何の術あつて之を保有せんとするか？」といひしに、王子言下に「王既に劍を以て之を得たり。兒も亦劍を以て之を保持せんのみ」と答へければ、王恰然として曰く「可し。汝の意に任さん。成敗は天に在り、願はくは、神よ、我靈魂を憐みたまへ」と。一四一三年三月王殂す。王子ヘンリー繼ぐ。之をヘンリー五世と稱す。

「ヘンリー四世」第二部は、ヘンリー五世の卽位を結末とす。

大正八年六月下旬

譯者識



ヘンリー四世

（第一部）

第一幕

第一場　ロンドン。王宮內。

英國王ヘンリー四世、其第三の王子ランカスターの公爵ジョン、侯爵ウェストモーアランド、士爵（サー）ウォルター・ブラント及び其他出る。

王　内憂の爲に惱亂疲憊した際であるから、悸えてゐる平和に暫時息をする餘裕を與へて、遙かの海外で開始さるべき新戰役の噂でも、息ぜはしく語らせることにしよう。　もはや二度とは此國土をして、がつ〳〵と其子供らの血を啜らしめて、唇を汚さすやうなことはさせまいぞ。　もう二度とは畑地を戰爭の爲に掘覆させたり、相戰ふ軍馬の蹄で千草の花を蹂躙らせるやうなことはさせまいぞ。　天變で現れる光り物のやうに敵視の眼を輝かして、同姓同質の仲らひのものが、つい此間までは、骨肉相屠る慘烈な內爭を事としてゐたのだが、今は漸く似つかはしく睦み合つて、知人同士、親族同士、身方同士が相鬩ぐやうなことはなくなつた。　もう、鞘の出來のわるい小刀のやうに、持主を傷つけるやうなことはあるまい。　斯樣な現狀である以上、諸卿よ、吾等は、有りがたい基督のおために、これから聖廟の所在地までも出張して、戰爭をしようと思ふ。　すなはち英兵の一大隊を徵集せねばならん。　苟も英國人と生れた者は、其母の胎內にゐる間から、彼等異端の徒を彼の聖地から追拂ふべき任務を荷つて生れてゐるのである。　彼の尊きお方は、今を隔ること一千四百餘年前に彼地を踏せられ、吾々の爲に無慚な十字架に掛からせられたのである。　併し、此計畫は、もう一年も前からの事で、改めて言はずとも、出陣は諸卿既に熟知の事である。　隨つて、今日の會合は、その爲ではない。……で、ウェストモーアランド卿、先づ足下に聽きたいのは、此緊急な計畫の進捗に關して、議會が昨日如何決議したかといふことである。

ウェス　御前、その儀に付きましては、種々熱心な評議の末、軍資の如きも、昨夜議定せられましたのでございますが、折から横紙破りに、ウェールスから甚だ不幸な報道を滿荷したる所の急使が到着いたしました。　就中最惡な知らせは、モオチマー伯がヒヤフォードシャーの兵をひきゐて、彼の放逸無法な

ウェールスのグレンダワーを征討せられましたところ、却つて彼れが暴手に捕虜となられ、伯の部下一千餘人は虐殺に逢うたといふ報道でございます。それから、兵士の死骸に對してウェールスの女共が加へました殘忍破廉恥の侮辱は、之を口にするを憚る程であると承はりまする。

王　では、其知らせが來たので、聖地へ出陣の件は中止となつたらしいなう。

ウェス　さやうでございます、その上に尙他の件が添ひましたので。と申すのは、それよりも更に厄介な、不吉な報告が北方から參りました。それは斯樣でございます。去る聖架節（九月十四日）に、彼地滯在中の、例の勇敢な「熱拍車」、バーシーの息ハーリーが、彼の有名な猛伯爵アーチボルド（ドーグラス）とホームドンの丘上に於て慘烈なる一戰に及びましたところ、それを、其砲擊の激しさによつて、推測いたして、先刻或者が報道してまゐりましてございます。もつとも、其者は其激戰の最中に馬を飛ばせて參りました

ので、其後の形勢は心得てをりません。

王　（徐かに士爵ブラントを見返つて）いや、實は、爰にゐる此忠勇無二の士爵ウォルター・ブラントが、今ちやうど、其ホームドンと此王座との間の土煙で汚れた汗馬から下りたばかりの處だ。さうして、愉快な、めでたい報告を持つて來てくれた。すなはち伯ドーグラスが敗北して、一萬人の蘇國兵と二十二人の武士とがホームドンの原上におのが血に浸つて累々としてゐたのを見て來たのだ。「熱拍車」はファイフの伯モオデーク、すなはち敗ぢたドーグラスの長子をも、アソルの伯をも、マーレーやアンガスやメンテイスの伯をも捕虜にした。これは實に立派な戰利品ではないか？　名譽の獲物ではないか？　え！　どう思ふね？

ウェス　全く、王侯の誇りとも遊ばさるゝに足る勝利だと存じます。

王　さうだ。で、わしは情けなくなつて、あゝいふ息子の父たる幸福を得てゐ

るあのノオサンバランドが嫉ましくなる。　名譽な噂の主題となる息子の父！　林中で第一等の眞直な名木、運命の女神の祕藏兒でもあり誇りでもある息子の父！　彼れの譽れを見聞くにつけて、わしは倍〻侔パーリーの面上の、あの放逸無頼の不名譽が目に附いてならん。　あゝ、眞夜中に飛び歩くといふ或豆仙女が襤褸に包まれてゐたうちに、雙方の子供を取換へてくれて、わしのパーシーを彼れのプランタジェネットと呼ばせてくれたらよかつたに！　すれば、彼れのパーリーがわしのになつたのであらうに。……侯爵、貴下は如何思ふね、あのパーシーめの尊大さ加減を？　彼れは、此一戰で捕へた捕虜は自家の用に手許に留めておくと言つて、ファイフの伯モオデークの他は、一人もわしの手へは渡さんと言つてよこした。

ウェス　それはきッと彼れの伯父の入智慧でございませう、あのウーセスターは、何かにつけて、陛下に惡意を有つてゐます。　で、羽ばたきをして、あの若者の肉冠を陛下に向つて逆立てさせようとしてゐるのです。

王　とにかく來て言ひ開きをせいと言つてやつておいた。　それこれ、ジェルザレム征討の神聖な計畫は、暫時中止しておかねばならん。……侯爵、次の水曜日にはウィンゾアで議會を開くことにするから、其事を貴族一同へ傳へておいて下さい。　が、貴下は急いでわたしの許へ來て貰ひたい。－まだ他に、一旦の怒を鎮めておいて、いふべき事や爲べき事がいろ〳〵あるから。

ウェス　かしこまりました。

皆々入る。

第二場　ロンドン。王世子ヘンリーの居室。

王世子ウェールスの公爵ヘンリー（親しみてはハーリーとも更に略してハルとも呼ぶ）と其放逸仲間の紳士フォールスタッフと出る。フォールスタッフは六十歳近い勳士爵だが、氣の若い、おそろしく肥滿した放蕩者である。

フォル　おい、ハル、もう何時だい、晝の？

王子　古い酒にくらひ醉つたり、夕食が濟むと直に鈕を脱したり、午が過ぎるや否腰掛で寢込んだりするもんだから、お前は馬鹿になッちまつたね、お前が當然聞くべき筈のことを聞かないのは。晝の時間なんか聞いて如何するんだ？　時間が酒か鷄肉であるか、掛時計が妓夫の舌であるか、日時計が

淫賣屋の招牌であるか、或はあの有りがたい太陽が燃え立つやうな琥珀織を着た小綺麗な肉的の女でゞもありやア格別だけれど、お前が晝の時間なんか聞くなア餘計なこッたよ。

フォル　感心！　お前も大分通になつたよ。掠奪を專門にする此方共には、月や七つ星が保護者樣だ。大日輪さんはお間だ、（と一寸鼻唄氣分になつて）「あちらこちらを遍歷なァさる」あのお立派なお武士は！　ねえ、馬鹿君さん、どうかねえ、足下が王さんに……叡聖なるハーリー陛下になつたらねえ、……いや、えいせいなるとは言へないや、お前はあんまり衞生家でもないから。

王子　ないとは？　どうして？

フォル　ないとも。酒は飲む、夜深しはする……

王子　だが、それが如何したといふんだ？　え、おい？

フォル　外ぢやァないがね、え、馬鹿ちやん、足下が王になつたらねえ、夜中のお武士

である我輩らを晝間の怠け者扱ひにさせないやうにしてくんなよ。此方らは婢娥さんのお組下で、暗がりのお武士で、間夫兼帶で、お目溢しで盜賊商賣をしてるんだ、傍次第で、海があの氣高い清いお月さんの言ひなり放題になるやうに、隨分身持をよくもして行く手合だと言ひ觸らしてくんなよ。

王子　さうだ、其通りだ。　お月さんの家來だけに、こちとらの懷具合は、海と同樣に、月の加減で滿潮になつたり、干潮になつたりするからね。　其證據はだ。　そら、あの月曜日の晩に遮二無二ふんだくつたあの金財布は、火曜日の朝めッちやくちやにふん使つてしまつたらう。「出しやァがれ！」と怒鳴つて奪つた奴を「おい、持つて來い！」とわめいて使ッちまつたらう。　さうして今は九つ階子の最底まで引汐といふ爲體だ。　此次の上潮にや必定絞罪臺の梁までも上つて行くだらうせ。

フォル　おや〳〵、中々巧いことを言ふね。　時に、あの酒店の內儀は、如何にも口あたりの好い代物ぢやないかい？

王子　あゝ。　ハイブラの蜂蜜のやうにね。　それからあの、野牛の皮の服（囚人服）てのも、持がよくッて、いかにも肌ざはりがよさゝうだねえ。

フォル　おや〳〵、馬鹿ちやん！　何だ、その洒落は？　其團子理窟は？　べらぼうめ、野牛の皮の服がおれにどんな因緣があるんだい？

王子　ぢや、如何いふ因緣で、おれがあの酒店の內儀なんかの噂を聞かなけりやならんのだい？　馬鹿な！

フォル　だつて、何だらう、お前は彼女を呼んで折々支拂ひをするだらう。

王子　只の一度だつて、お前の分をお前に拂はせたことがあるかい？

フォル　ない、決してない。　みんなお前が拂つてくれたよ。

王子　無論。　其他、どこへ往つた時にだつて拂つたよ、おれに金がある限りは。

金がない時分にや、おれの信用を利用するのが定例だらう。

フォル　さうさ、殆ど極度までもだ。　で、若しかお前が「儲けの君」として世間に待設けられてゐなかつたなら・・・・いや、それはさうと、馬鹿ちやん、お前が王さんになつたつても、此英國に絞罪臺を存しておく積りかい？　法律といふあのふざけた老爺の銹びた銜鏈で、勇士をごちやまかしてしまふ料簡かい？　ねえ、お前の代になつたら、盜賊を絞罪にするのはよしなよ。

王子　おれはしないよ、けれどもお前が其役をするだらうぜ。

フォル　おれが？　おゝ、素敵々々！　それこそ名判官が出來るだらう。

王子　もうそれが誤判だ。　おれは、お前はきッと絞罪係りを勤めるだらうが、それは素敵な適任だと言つたんだよ。

フォル　うん、成程、うん。　ハルや、さう聞いてあんまり惡い氣持もしねえな、とにかく役所へ出頭といふ譯なんだからな。

王子　就任の沙汰にでも有り附かうといふのか？

フォル　なァに、囚人の被たのに有り附かうといふのよ、死刑囚の古着は悉皆役德になるんだからな。・・（俄におそろしく萎れて）あゝ、けふは實に情けなくなつちまつた、まるで爺猫か、引摺廻された熊のやうに。

王子　で無きやァ、耄けた獅子か、戀狂人の彈く琵琶のやうに。

フォル　全く。　で無きやリンコンシャーの囊笛よろしくだ。

王子　ぢや、兎の如くは如何だい？　あのムーア掘の情けなさ宜しくは如何だ？

フォル　お前はいやに面白くもない比喩ばかり記え込んでるねえ、おッそろしく見立上手の、ろくでなしの、お結構な若君さまてのはお前のこッた。　だがハルや、賴むから、もうそんなくだらないこと言ッこなし。　實際、近頃ァ、おれも、お前もだ、どうかして、もう些と好い噂をされるやうになりたいもんだと思つてるんだ。　樞密院の或老議官が、此間、往來で以ておれを怒鳴附け

やがつた、お前のこッてよ。おれは、全然關ひつけなかつた。けれども奴め、賢人振ァがつて、べら〳〵と喋舌り立てやがつた。けれどもおれは知らん顔をしてゐた。それでも奴ァ、尙べら〳〵だ、賢人ぶりやァがつて、而も街の眞中でよ。

王子　お前の其行爲は當を得てるよ。「賢人街頭に叫ぶと雖も、人は之を意に介せず」とあるからね。

フォル　しやうのない、口眞似坊主の揚足取が！　其口にや聖者だつてごちやまかされてしまひさうだ。お前はどの位ゐおれに惡感化を與へたか分りやァしないぜ。天罰がお前に當らなけりやァいゝがなァ！　バル公、おれはお前と知合にならなかつたうちは、無邪氣なもんだつたが、今ぢや、正直、惡黨仲間だといはんけりやならん。もうこんな生活は廢めんけりやならん。おれは最早止めるよ。誓つた。廢めなけりや俺は惡黨だ！　地獄

に落ちるのは否だ、基督教國の王子さんの爲にだつて、否だ。

王子　（わざと突然に）おい、ジャック、明日ァ、どこで行らう追剝を？

フォル　（俄に元氣づいて）何處でだつて關ふもんか、お前が出掛けるなら、何處へでも出掛けるよ。出掛けなかつたら、どんなにでも惡黨扱ひにするがい、や。

王子　感心、忽ちのうちに生活の改良に及んだね、お祈禱を廢めて追剝へ。

フォル　だって、ハル、こりやおれの職務だァな。職務に努力するのァ決して罪惡ぢやァないや。

無頼仲間のポインス出る。

ポインスが來た！……ガッヅヒルの奴がいよ〳〵張込んだか如何だか、奴に聞きや分るだらう。……あゝ、人間てものが功德次第で救はれるものなら、奴なんかァ（とポインスを見つゝ）どんな焦熱地獄へ落ちたつて足らねえくらゐだ！「待てッ！」と正直者を威嚇し附ける惡黨仲間で、奴ァ横綱といふ格だ。

王子　（ポインスを迎へて）お早う、ネッド。

ポイン　おゝ、ハルさん、お早うござい。……（フォールスタッフに）おい、どうだね、後悔堂先生？　如何な御機嫌だね、酒と砂糖のお武士さん？　おい、ジャック、例の惡魔との靈魂の取引て奴は如何したね、先の受苦日に、お前は奴にマデ

イラ酒一盃と鷄肉一斤とで靈魂を賣ッちまふ約束をしたゞらうぢやねえか？

王子　士爵ジョンは約束を違へるやうなことはしないよ。きッと惡魔に靈魂を與ッちまふだらうよ。諺通りの先生だからね。「與るべき物は惡魔にも」といふ諺があるだらう。

ポイン　ぢや、お前は（とフォールスタッフに）地獄へ落ちるね、惡魔との約束を履行したといふ科で。

王子　で無きや惡魔をさへ騙したといふ科で、地獄へ落ちるだらう。

ポイン　おい〳〵、兩大將、それはさうと、明日の朝は、四時の起きがけにガッヅヒル（地名）だぜ！　すばらしい納め物を荷はせた參詣人共がカンタベリーへやつて來るし、それに商人共が、財布をみッちり脹まして、ロンドンへ上つて來る。おい、覆面は、衆のを持つて來てやつた。馬はめい〳〵持つて

るだらう。　ガッヅヒル（人名）は今夜もうロチェスターに泊り込んでゐる。明日の晩餐まで既うちやんとイーストチープで準備させておいた。一眠するよりも間違ひっこのない仕事だ。　一しよに行く氣なら、お前たちの財布はおれがきっと金貨で一ぱいにしてやるんだ。　否なら、後に殘つてゝ、縊殺されてしまひな。

フォル　おい〳〵、エッドワード。　もしか俺が往かねえで殘つてるやうなら、往つたつて科で、汝を縊殺させてくれるから然う思へ。

ポイン　なに、お前が？　此肉の塊り野郎め！

フォル　ハル公、おい、お前も行るだらう？

王子　え、だれが？　おれが、追剝を？　どろぼうを？　いやなこッた。

フォル　ちや男一疋とは言へねえ、友達甲斐もねえてもんだ。　十シリングだけの働きも出來ねえやうちや、迚も頭に金貨（金冠）ンを載ける人にやなれねえ。

王子　ちや、たッた一度ッきり狂人仲間へ入らうか？

フォル　よう〳〵！　さうなくッちやならねえ。

王子　いんにや、おれは、どうしたつても、後に殘つてる。

フォル　ちや、俺ゃ謀叛するよ、お前が王さんになつた時分に。

王子　かまふもんか。

ポイン　士爵ジョン、關はず俺と王子さんとを置いて行きなよ。　後で俺が、いろ〳〵利害を說いて、一しよに出掛けなさるやうにするから。

フォル　どうか神さまがお前に巧い辯口を、又ハル公にや聞分の好い耳をあてがつて下さりやいゝがなァ。　さうすりや、話が腑に落ちるだらうから、正眞の王子さんが、お慰みの爲に贋物の盜賊におなりなさらうといふものだ。上流衆を身方にせなけりやァ相應な惡事も出來ねえ。……さよなら。　イーストチープで待つてるぜ。

王子　さよなら、爺さん青年！　さよなら、小春日和どん！

フォールスタッフ入る。

ポイン　さァ〳〵、御前さま、若君さま、一しよにお出掛なさいまし。　わッし一人ぢや出來ませんが、面白いことがあるんです。　フォールスタッフとバードルフとピートーとガッヅヒルとが豫て張込んでおいた旅人共を剝ぎませう、御前とわッしとは故ッと其場所へは出會はないでゐて、奴等が仕事をしッちまつた時分に飛込んでつて、其獲物をふん奪らうてんでさ。　萬一にも、それが間違ふやうでしたら、此首をお取んなすつて下さい。

王子　どうして別になる、奴等とう？

ポイン　なァに、奴等より先か後かに出掛けることにしまさ。　出會ふ場所だけを定めといて、さうして故ッと出會はないやうにしまさ。　そこで奴等だけで仕事をさせて、さうして其仕上げた時分に襲つてくれませう。

王子　だッて直に分ッちまふだらう、俺たちだてことが、馬や被服や何かで。

ポイン　何の！　馬なんざ見せやしませんや、森ン中に繫いでおきますから。　覆面も、奴等に分れてから取換へまさ。　それから又、豫て其爲に準備しといたゴム引の革合羽て奴を引被けますから、定例の上ッぱりなんか見えッこなしでさ。

王子　だけれど、彼方は四人だのに、此方はたった二人だらう。

ポイン　何、貴下、あの中の二人は生れ附の臆病者で、逃げるのが專門でさ。　三人目と來ちや、たかゞ二打三打でさ。　それ以上抵抗するやうだつたら、わッしは速かに武士を廢めます。　ねえ、此滑稽の妙味は、あの肥ッちやうの惡黨めに、晩に一しよになつた時分に、滅法界もねえ大虛喝を喋舌くらせる點にあるんでさ。　奴め少くとも三十人を相手に働いたとか、危く突通される所を、如何ひッぱづして如何受けたなぞと、出放題な虛喝を竝べるの

を、後で種明しをして、鼻づら磨り上げてやるのが滑稽でさ。

王子　うん、ぢや、お前と一しよに行かう。　必要な物を準備して、明日の晩イーストチープへ來な。　あそこで夜食をするから。　さよなら。

ポイン　御前、さやうなら。

ポインス　入る。　王子　只一人殘りて、思入あつて

王子　汝らの性質はよく知つてゐるんだ、けれども、當分の間、わざッと勝手放題な放埒をさせておくのだ。　譬へば、太陽が、一時は醜い雲や靄に其麗明を壓殺させてしまひさうに掩はれてゐながら、いざ照らす必要が有るとなると、突然其穢い雲霧から躍り出でて、世界に一驚を喫せさせる如くに、世間の者を駭かさうといふのが俺の肚だ。　一年中が祭祝日づくめであつたら、遊ぶのが働くのと同じに煩くなるだらう、けれどもそれが待焦れられる程に稀だから好いのだ。　何でも稀に起る事が喜ばれる。　だから、俺が

此放埒な生活を急に止めて、意外な負債を償還する段となつたら、それが豫想外であるだけに、欺された奴等が驚き喜ぶだらう。　陰暗な地金へ黄金の象嵌といふ格で、俺の心機一轉が、前々の不品行があるだけに、一層きらめいて衆目を駭かすだらう、照り合す地金のない場合よりも。　俺は、所詮、方便に惡い事をしてゐるのだ、今に、世間の奴らが、夢にも思がけてゐない時分に、生れ變つて見せてくれる。

入る。

第三場　ロンドン。　王宮。

ヘンリー四世王、つゞいてノオサンバランド伯、其弟ウーセスター伯、ノ

ノオサンバランド伯の男ヘンリー・パーシー（綽號熱拍車）、士爵ウオルター・ブラント及び其他出る。

王　それほどまで侮辱を受けて平氣でゐたのは、自分ながら冷靜に過ぎ、寛大に過ぎてゐた。足下たちはまた、それを豫め見て取つて、敢て侮辱を加へたのであらう。向後は、自覺して、生來に背いて、足下たちに畏れ憚かられるやうにする積りだから、然う思ひなさい。油のやうに滑かに、雛の柔毛のやうに柔かな生來の爲に、當然受くべき尊敬を失つたのであるから。傲慢な輩は、傲慢な者にのみ敬意を表する習ひだ。

ウーセ　（憤激して）陛下、自分ら一家の者に限つて、大權の所有者からお叱りを蒙る筈はございません、殊に其所有者が其大權を所有せられるに至つたのは、主として我黨の後援の力であつた場合に於ては。

ノオサ　御前・・・・

王　（ウーセスターに）ウーセスター、退席なさい。足下の眼中には、危險な、悖戻の色が見える。おゝ、一體、足下がこゝへ出て來るといふのが大膽過ぎる。王たる者が其臣下に怒つた顏を差向けられるといふことは、忍ぶべからざることである。よろしい、速かにお退んなさい。用があれば、迎ひにやります。・・・・

ウーセスター　佛然として入る。

ノオサ　（ノオサンバランドに）何か言ひかけなすつたな？

はい。・・・・えゝ、陛下が、過般御要求になりました、伜パーリー・パーシーがホームドンで捕虜にいたしました者共の件は、伜の申す所によりますと、決して、陛下のお耳に達したやうに、さやうに手強く御拒絶申した譯ではなかつたらしうございます。すなはち何等かの惡意か誤解かゞ其間に存

熱拍車

するのでありまして、伜の輿り知らぬことのやうに承ります。

御前、捕虜のお引渡しを否んだ譯ぢやありません。ですが、たしかあの時は、ちやうど激戰が濟んだばかりの時で、怖ろしく息が切れて、疲れてましたから、劍を杖にして休んでゐたのです。すると、そこへ、まるで花婿か何ぞのやうに、いやに飾し立てた一人の貴族がやつて來ました。顧は剃立で、收穫時の刈株畑よろしくて奴で、化粧品屋の若い者のやうにぷんぷん香水を匂はせて、指先にや香料匣を摘んでゐて、時々それを鼻の先に當てたり離したりするんで、鼻も腹が立つと見えて、二度目にやふんと鼻であしらふ。其男は始終にや〳〵と笑貌をして喋舌りつゞけ、兵卒が死骸を擔いで其前を通つたりすると、風上から穢らはしい物を鼻の先へ持つて來るとは無禮だ、不躾だなぞと罵りました。手前に物をいふ時なんざ、餘所行仕立の奥御殿言葉で奴を使つて、べら〳〵べら〳〵、つまり、其序に、

陛下のお爲に捕虜を引渡せとか何とか言つたのでした。ちやうど傷口が冷えて來て、痛い最中に、氣障な鸚鵡野郎と來たのですから、つい忍耐が出來なくなつて、半夢中で好い加減なことを言つたのでした。捕虜を持つて行けと言つたつけか、持つて行くな、と云つたつけか、記えてません。いかにも機敏らしく、さうして芬々匂はせて、奥女中のやうな口吻で、大砲の事や陣太鼓の事や手傷の事を喋舌るのを聞くと、堪らなくなつたからです。……こたへ

られないや！……「手傷には鯨腦油ぐらゐ無上い藥品はございませんですよ」とか、「何等の惡意もなき地腹から、あの怖るべき硝石なるものが發掘されて、卑怯なる飛道具の料となつて、幾多の勇士を斃すとは、實に淺ましい次第です、あの銃砲さへ無くば我輩と雖も敢て武人になつたのですが」なぞと言やァがつて。　さういふ無茶な、滅裂な駄辯に對して、ついその、今申したやうに、好い加減な返辭をしたのでした。　ですから、そいつの言つた事なんかを證據に、陛下に對する手前の忠誠をお疑ひにならないやうにお願ひします。

ブランシ　御前、只今のお話で、事情を考へ合せますと、バーリー・バーシーどのが、其際、其場で、どう其仁に返答せられたに致せ、それは當然消滅に歸すべきものかと考へます。　殊に自身で否認せられます以上、其際申されたことに何等の不都合もなかつたことと心得ます。

王　（ブラントに）だが彼れはまだ捕虜を引渡さうとは言はない、此際其交換條件として、予が償金を支出して、彼れの義兄の、あの愚者のモオチマーを直に敵から身受けしてやらない以上は。　あのマーチ伯モオチマーめは、あの憎むべき魔術使ひのグレンダワーを征討にといふは表向きで……現に最近彼れの女と結婚したと聞いた……其實、故意に其部下の兵の生命を失はせたも同樣の事をしをつた。　さういふ謀叛人を身受けするために、え、官庫を空にすることが出來るか？　奴らは自ら好んで、わざと敵の手中に落ちたのだ、さういふ怖ろしい仇敵共と地道な取引が出來るか？　いゝや、彼奴の如きは、荒山で飢死させるが當然だ。　叛賊のモオチマーを身受けするための費用を一錢たりとも乞ふ者を予は親友と思ふことは出來ない。

熱狂　（憤然として）叛賊のモオチマーですと！　陛下、彼れは決して謀叛したのぢやありません、ありや全く負け軍の不祥たるに過ぎないのです。　それを

王　證明するには、只一枚の舌がありや澤山です、あのくわッと開いてゐた無數の傷口が物をいひます、あのセヴーン河の葦の茂つた堤の上で、彼れとグレンダワーとが人交もせず一騎打の勝負をして、何十分と勇敢に戰つた時に受けた傷口が好い證據です。　三度まで息休めをしたのです、三度までセヴーンの急流の水を飲んだのです、互ひに承諾の上で。　さすがの急流も、二人の血みどろな面を見ては悸え上つて、慄えてゐる葦の茂みをおつかなさうに突走つて、勇士と勇士の血で眞赤になつてゐる堤の凹みへ、其縮れ頭を突込み〳〵したと言ひまさ。　卑劣な計略で、あんな怖ろしい手傷を負つた例なんかあるもんですか？　況んやモオチマーが、あんな傷を求めて負ふ筈はありません。　逆心あつての事だなぞといふのは、全く讒誣の沙汰です。

バーシー、それは虛僞だ、お前の拵へたことだ。　彼れは決してグレンダワーと一騎打なんかしやァしなかつた。あのグレンダワーを敢て敵とする程の勇氣がありや、隨分惡魔とも一騎打をしたらうが、それは決して無いことだ。　おい、恥を知りなさい！　なう、以後はもう決してモオチマーの事は、言はんやうにして貰はう。　捕虜は出來るだけ早く送りなさい。　で無いと、面白からん沙汰を予の口から聽かんければならんやうになるであらう。……ノオサンバランド卿、子息と一しよに、何時なりと、出立なさい。……捕虜を送つて下さい。　で無いと、沙汰をしますぞ。

王へヘンリー、ブラント及び從者ら入る。

熱拍　假令惡魔が來て怒鳴つたからつて、捕虜なんか渡すもんかい！　すぐ追掛けて行つて、然ういつてやらう。　首が飛んだつて關ふもんかい、此胸を透してくれう。

奥へ行かうとする。

ノオサ　（止めて）えいッ、逆上でもしたか？　まゝ、待ちなさい。‥（一方を見て）あ、叔父貴が來た。

ウーセスター又出る。

熱拍　（獨語的に）なに、モオチマーの事は言はんやうに！　畜生！　言はなくッて如何するもんか！　おれの靈魂は地獄へ墮ッちまへ、若し俺が彼れと合體しなかつたら。　さうだ、おれは彼れの爲に、此血管を空にしなくつちやァおかない。　おれの血の有ッたけを傾瀉けても、あの蹂躙れてゐるモオチマーを、あの恩知らずの王めの、あの忘恩の奸賊ボリングブロックめと同じ高さの位置まで持上げにやァおかないぞ、うぬ！

ノオサ　（ウーセスターに）弟、王はお前さんの甥を狂人しッちまつたよ。

ウーセ　（熱拍車に）ちよつと彼方へ往つてた間に、だれが如是騷ぎを起したのだい？

熱拍　奴め、すぐに捕虜を殘らず引渡せと言やがるんです。　で、わたしは、改めて

義兄の償金の事を力説しかけたのです。　すると、奴め、頰の色を眞蒼にして、じッとわたしを睨んで、モオチマーの名を聞くたびに、ぶる〳〵慄えてゐやがるんです。

ウーセ　そりや其筈だ。　モオチマーは、故リチャード王の宣言によると、最も王位に近かるべき血統の人だからなァ。

ノオサ　其通り。　わたしは現に其宣言を聽いたよ。　が、それと同時に不幸な故王は愛蘭征討に‥‥あゝ吾々にも罪がある、神よ何卒お赦し下さい！‥‥出發された、さうして途中で遮られて、歸京されるやいなや位を廢され、やがて虐殺に逢ひなすつた。

ウーセ　さうして其虐殺が原で、吾々は世間の口の端に掛つて、さん〳〵に惡口された。

熱拍　あ、ちよつと。　それぢやァ、あのリチャード王は、義兄のモオチマーを王位

の継承者にすると宣言せられたのですか？

ノオサ　うん。それは俺が慥かに聽いた。

熱拍　ちや、無理もないや、モオチマーの近親のあの王が彼れを荒山で飢死させたいと言つたのは。それはさうと、貴下達は、よく平氣でゐられますね、あの恩知らずの頭へ王冠を載けてやつて、そのお庇で弑逆の醜名まで背負つて、さんざっぱら惡口雜言されて、よく平氣でゐられますね、やれ、手先だの、下働きだの、繩だの、階子だの、絞罪係だのと言はれて？　や、失禮！　かういつちや些と言ひ過ぎかも知れません、けれどもあの老獪な王に對する貴下がたの位置、關係は、まァさうなんだ！　貴下がた程の人達が、不正な目的のために、名譽、權力を質にしたていのは・・・・あゝ神よ赦したまへ！・・・・あの薔薇のやうな、可憐しいリチャードを押倒しといて、あの荊棘を、あの野ばらのボリングブロックを植ゑ附けたのでのは、現世の恥辱であるのみならず、後世までも史上に恥を貽す所行ぢやなかつたですか？　況んや恥面アかいてまで奉體した其男の爲に馬鹿にされて、抛り出されてしまつたなんてのは、ます〳〵恥の上塗ぢやありませんか？　いゝや、まだ晩かァない。今なら尙、失した名譽を取返し、世の信用を恢復して、あの傲慢な王の侮辱嘲弄に復讐をなさることが出來んこともない。彼奴め、今は晝も夜も魂膽を凝してゐる、貴下がたに借りた一切の負債をどうかして一擧に、殘酷な死刑で以て、濟してしまはうとしてゐる。だから、わたしは言ふのだ・・・・

ウーセ　まゝ、分つた、お默りなさい。今わたしが祕密の一卷を繙いて見せるから、お前さんの其不平滿々の敏こい頭で、其重大な、危險な內容を讀んで御覽。それは、譬へば、渦を卷いて轟々と鳴渡つてゐる急流の上を、ぐらつく槍一本を橋にして、渡らうとするやうな冒險なのだ。

熱拍　ぢや、墜落ちりやァおだぶつだ！　沈むか、浮くかだ。（獨語的に）東から西へ、「危險」を横ッ倒しにしておいて、「名譽」を暗雲に北から南へと駈け拔けさせて、格鬪させる。　あゝ、同じ狩出すくらゐなら、兎よりも獅子のほうが血が躍る。

熱拍車は冒險を想像して暝想に耽つてゐる。

ノオサ　（ウーセスターに）何か大手柄を想像して、逆上せて、有頂天になつてゐる。

熱拍　（尙獨語的に）なァに、實際のこッた、只その失した名譽を元通りに復せしめるといふだけの事なら何でもないのだ。　天へ飛び上つて行つて、あの蒼白い面のお月の手から清淨の名譽を引奪つて來るのも容易なこッた。　或は測量鉛も達かない海のどん底まで潛つて行つて、沈んでゐる名譽を其前髪を掴んで引上げて來るのも何でもないのだ。　が、たまらないのは、此みじめな、生ぬるい御奉公ぶりだ！

ウーセ　（ノオサンバランドに）さやう、彼れは例の取りとめのない、いろんな空想に耽つてるのです。・・・・（熱拍車に）おい、甥御、ちつと聽いてくれないか、話を？

熱拍　（心附いて）あ、失禮しました。

ウーセ　外ぢやァない、お前さんの捕虜の、あの蘇國の貴族連のことだが・・・

熱拍　（性急に）ありや一人殘らずわたしの許に置きます。　誓言！　一人だつて奴なんかに渡すものか！　いや、決して。　苟も蘇國人にして、靈魂を墮獄させまいと望んでゐる以上、決して引渡しません。　わたしは誓つて手許に置きます。

ウーセ　忽ち横へ外れてしまつて、わたしの言ふ事を聽いてくれないから困る。捕虜は手元におきなさるが可い。

熱拍　然、おきますよ。　分り切ッたことだ。　奴め、モオチマーの身受はしない、モオチマーの事は口にする事はならん、と言やァがつた。　關ふもんか、奴

が寢てる處へ往つて、其耳元で、大聲で「モオチマー！」と怒鳴つてくれる。

さうだ、掠鳥めに只モオチマー〳〵と鳴くことだけを敎へて、それを奴の許へ送つてやつて、それを聞くたびに怒りつゞけてゐなけりやァならんやうにしてくれる。

ウーセ　（止めて）おい〳〵、まァ聞きなさいよ、たった一言でいゝから。

熱拍　（尙半夢中で）誓つて、何もかも擲ッちまつて、只もうあのボリングブロックめを痛め附けるのを仕事にしてくれる。それからあのウェールスの公爵め、あの横柄な生利野郎、現在の親父さへ可愛がつてゐないで、どうか變死でもすれば可いと願つてゐるといふことを思はなけりや、夙に麥酒に毒を仕込んで、其一盃で盛殺してくれたかつたんだ。

ウーセ　（呆れて）ぢや、さよなら。もつと聽いてくれさうな時に話すことにしよう。

ノオサ　（熱拍車に）これ〳〵、何といふ無法な、馬鹿な癇癪三昧だ！　女子供ぢやあるまいし、自分の勝手ばかり喋舌り散らして、更に他の舌に耳を貸さないといふのは！

熱拍　それだつて、わたしア　あの老獪なボリングブロックめが物を言ふのを聞くと、まるで笞で撲たれて、棒で叩きのめされて、荊棘でひッかゝれて、おまけに蟻に咬立てられるやうな氣持になるんです。リチャード王の時分に……ありや何處でしたッけねえ？……畜生、何とか言つたッけ彼處は？……あ、グロースターシャーだ。あそこに、あの優柔のヨオク公爵が住んでゐた。……あそこでだ、わたしが初めてあのにや〳〵笑ひの名人に、あのボリングブロックめに拜謁に及んだのは。……畜生！……貴下と奴とが丁度レヴンスバーグから歸つて來た時だ。

ノオサ　バークリー城内で初めて會つたのだ。

熱拍　さうです。……あの時、あの阿諂の獵犬めが、ま、何て甘ッたるい追從の有

りったけを、わたしに對つて竝べやがったらう！　ねえ、「自分の此幼稚な好運が果して悉なく生長つ時機ともなれば」とか、「我バーリー・バーシー君」とか、「我義俠なる親戚の君」とか……あゝ、惡魔よ、あゝ僞善的奸賊を取殺してくれ！　どっこい、そんなことを言つちゃァ神樣にすまなかつた！……

ウーセ　（サーセスターに）叔父さん、さ、お話を聽きませう。　もう止めました。

熱拍　いゝや、まだ殘つてるなら、御存分に。　わたしは待つてますから。

ウーセ　もう全く濟みました。

熱拍　ぢや、改めていひます、例の捕虜の件だが、あれは償金に係らず、すぐ引渡しておしまひなさい。　それから蘇國で兵を募るには、是非あのドーグラスの息子（ファイフ伯モオデーク）を無二の仲介者になさるが可い。　それは、後から書いて送る種々の理由があつて、先方に異議のあらう筈はない。……貴下は（とノオサンバランドに）息子さんが右の如く蘇國で事を運んでゐる間に、竊かにあの名望の高い、例の大監督の腹心に分け入つて……

熱拍　ヨオクの大監督でせう？

ウーセ　さうだ。　あの仁は舍弟スクロープ卿がブリストルで殺されたのを酷く含んでゐる。　これはでもあらう程度の臆測ではない、十二分に咀嚼され、計畫され、確定されて、只機會の面の見えるのを俟つてゐるといふ程度にまで運んでゐるものとしていふのだ。

熱拍　あ、匂つて來た。　きッと巧く行きさうです。

ノオサ　おのしは、兎角、まだ獲物が飛出しもせないうちから、犬を追放すから不可よ。

熱拍　だつて、こりや大丈夫、素敵滅法界な計畫です。……ぢや、蘇國の兵と其ヨオクの兵とが……モオチマーのと合體するんですね、え？

ウーセ　あゝ、さうだ。

熱拍　そいつア非常に巧い魂膽ですなァ。

ウーセ　つまり事を擧げるのを急ぐのは止むを得ないからだ、お互ひの首を失すまいとするに外ならん。　と言ふのは、どんなに吾々が用心して奉公して見たところで、王は吾々に負ふ所の多いために、それをすッかり濟してしまはんうちは、きッと不滿でゐるだらうとばかり邪推してゐる。　で、近來に至つては、吾々を疎んじてゐるのが、明かに其眼色に見えてゐる。

熱拍　さうです〳〵。　今に其仕返しをしてくれらァ。

ウーセ　甥御、ぢや、さよなら。‥‥今はこれだけにしておいて、悉しい方針は、あとから書面で知らせることにする。　時機が熟すれば、(それはもう直のことだが)、わたしは竊とグレンダワーとモオチマーとを訪ねる積りだ。　あそこで、ドーグラスの兵も、わたしらのも、豫て然ういふ風に手筈しておかうから、好い具合に一しよになつて、さうして、其強大な力で吾黨の運命を支

撑することにしよう、今は吾黨の運命が、まだ甚だあやふやだが。

ノオサ　では(とウーセスターに)御機嫌よう。　きッと成功するよ。

熱拍　叔父さん、さよなら。　あゝ、早く時が經てば好いにな、野山に鳴り渡る劍の音と唸き聲とで以て、あの野獸めを狩出してくれたい！

入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

第二幕

第一場　ロチェスター。旅館の内庭。

擔夫甲が手に挑灯を持つて出る。

甲　おういい！……これが明け方の四時でなけりや縊り殺してくれ！　北斗七星が新規の煙突の上まで來てらァ、それだのに尙馬の荷が出來ねえ。……やい、馬丁！

馬丁　（奥にて）ぢきだ、ぢきだ。

甲　後生だ、トム・カット（荷馬の名）の鞍ァ叩いて、ちッとべい毛屑塡めてやつてくんろ。奴め、可哀さうに、おッそろしく肩ッ骨痛めてるだからね。

他の擔夫乙出る。

乙　豌豆だつて、豆だつて、黴だらけになッちまつてらァ、どッ畜生よろしくだ。これぢやァまるで蠅の卵を製造してるやうなもんだ。　ロビン馬丁が死んでからてものア、此家ア顚覆へッちまつたァ。

甲　可愛さうな男よなァ！　燕麥が騰貴つてからてものア、悄氣ッちまつてた。死んだのはそれが原因だァな。

乙　なァ、ロンドン海道で、此家ほどおッそろしく蚤のゐるとこァ有りやしねえぜ。　俺まるで泥鯉のやうに刺られッちまつたい。

甲　泥鯉のやうに！　ほんのこッた、どこの、どんな偉い王さまだつて、おれが、一番鷄から今までに刺られた程にやァ、刺られることァ出來やァしねえや。

乙　つまり、溲瓶をよこしておきやァがらねえからよ。　つい煙筒へやらかす、だから其小便から蚤が生くんだ、泥鰌から生くやうになァ。

甲　（奥に向って）やい、馬丁！　どうしたんだい、悪黨！　え、おい、どうしたてんだい！

乙　俺ァ鹽豚と生姜をチェリング・クロッスまで持ってかんけりやなんねえ。

甲　畜生！　あの大籃の中の七面鳥はもう大概くたばりかゝってるんだ。……おい、馬丁！　何してやがるんだい！　手前の頭にやァ目玉は無えのか？耳は無えのか？　手前のやうな奴の頭ァ叩きわるのは酒くらふのもおんなじの善い事でなけりやァ俺惡黨だに。……早くうしやァがれてば！　お宗旨は無えのか、此野郎？

フォールスタッフの仲間の無頼漢の一人ガッツヒル出る。

ガッツ　擔夫さん、お早う。　何時だね？

甲　（わざと惚けて）二時頃だんべいか。

ガッツ　後生だ、挑灯を貸してくんな、廐にゐる俺の閹馬を見に行くんだから。

甲　おっと、待って下さい。　二つ挑灯が要ることになりさうだからね。

ガッツ　（乙に）後生だ、お前のを貸してくんな。

乙　はい〳〵、一昨日お出でなさいだ。……へッ！　お前のを貸してくんなとおつしやる。……それよりも前に、お前さんの絞罪になるのを見べいよ。

ガッツ　ねえ、擔夫さん、何時ごろロンドンへ着くね？

乙　さ、手燭持って寢床へ行く位ゐの間は、まだ大丈夫あるべいよ。……さ、マッグス、旦那衆を起さつせいよ、荷物がどッさりだから、おほぜい揃つて行く氣だらう。

甲乙入る。

ガッツ　（奥に向って）おい〳〵！　番頭！

番頭　（奥に）へい、こゝに、と巾着切が返辭をしたと言つても、「へい、こゝに、と番頭が答へた」と言つても、ま、おつつかつつだ。　何故って、お前と巾着切との差ひは、仕組むのと仕上げるのとの差ひに過ぎないからね。　お前は仕組むんだ。

獨りごとを言ひ〳〵番頭出る。

番頭　お早うごす、ガッヅさん。　昨日お話した通りでござんすよ。　ケントの方から來たお百姓さんは、金貨で二千兩も持つて來てまさ。　お同行の一人へ、昨夜夜食の時に然う話してたのを聞きましたよ。　その一人てのは、何でも大藏省のお役人さんでね、これも澤山持つてまさ。……何ぼ程だかは知れませんがね。　もう皆な起きて、卵兼酪で朝食をと命じてます。　もうすぐ發つでせう。

ガッヅ　大將、やつらァきッと山のお上人のお弟子たち（山賊）に邂逅るぜ。　若しこの

番　豫言が間違つたら、此首をお前に遣らァ。

ガッヅ　いゝえ、そりや御辭退しますよ。　ま、それは、保存になすつて、絞罪係へお渡しなさい。　何故ッてね、お前さんは、其山のお上人さまを御信仰だてことは分り切つてゐますからね。　不正直なお人柄相當にね。

ガッヅ　絞罪係が如何したつて？　萬一俺が首を絞められるやうだと、絞罪臺に肥滿漢が一對出來ることにならァ。　何故ッて、おれが絞められるやうだと、あの士爵ジョンの爺さんもやられる譯だが、ありや決して瘦ッぽちぢやないからね。　へッ！　お前は知らねえけれど、仲間中にや不思議な偉い大將がゐるからなァ、ほんのお慰みに此職業を遊ばさうてのがあるんだ、で若し事がむづかしくなつた日にやお身分に係るから、そこは何もかも圓く治めッちまはうてんだ。　おらッちの仲間は只の無賴漢ぢやァねえのだ、長い棒で以てたッた六ペンニーそこいらをぶッ奪つたり、髭を紫色にして　狂水をあほ

つたりするやうな手合ぢやァねえんだ。皆なお歴々の、お樂々の、お殿さまの、お物持さまなのだ。いざとなりや、ずッと治まッちまふことも出來るお方々だ。喋舌くるよりも先に撲り附け、飲むよりも先に喋舌くり、祈るよりも先に飲むといふお方々だ。どッこい、そりや嘘だつた。奴ら始終お祈りをしてらァ、國内が繁昌しますやうにといつてね。いや、祈るんぢやないや、強請るんだ、少しでも景氣が好さゝうだと、國中を乘廻して、一々其頭を奪つて歩くんだ。

番　國中の頭を？　さう撲られた時分にや、なんぼ大きな國の頭だつて脹れさうなもんですね。

ガッヅ　あゝ、憤激れるよ。けれども、そこはお上から膏藥が下つてるから大丈夫だ。俺たちは、城ン中で仕事をするんだ。羊齒の種（隱形劑）を持つてるから、目附りッこはねえ。

番　いや、目附からないのは夜のお庇でせう、羊齒のお庇よりも。

ガッヅ　おい、握手しよう。お前にゃ、必ず仕入れ物を分けてやるよ、嘘はいはない、おら正直者だ。

番　さァ、いつそのこと、盜賊さんの貴下が下さるんだから、平氣で頂戴しますと言ッときませうよ。

ガッヅ　人をつけ！「盜」だけ止してくれ、せめて「坊さん」ぐらゐで忍耐してくれ。……さ、馬丁に然ういつて馬を引出させてくんな。さいなら、鈍洲。

入る。

第二場　ガッヅヒルが岡附近の公道。

王子ヘンリーとポインスと出る。

ポイン　さ、さ、早くお隠れなさい。わッしがフォールスタッフの馬を隠しッちまつたんで、奴め、ゴム引の大鹿絨のやうに憤々してまさ。

王子　かくれろ〳〵。

二人樹蔭へかくれる。フォールスタッフぶつくさ言ひながら出る。

フォル　(腹立聲で)ポインス！……ポインスの奴め、首イ絞められてしまやァがれ！……ポインス！

王子　(何氣なげに樹蔭から出て來て)やかましいぢやないか、此土手腹が！　何を怒鳴つてゐるんだよ！

フォル　おゝ、ハル公！　ポインスは？　え？

王子　岡の頂邊の方へ歩いてつたよ。往つて搜して來よう。

王子又木かげへ入る。

フォル　あんな盜賊野郎の仲間なんかになつて追剝をするやうだと、おらァ地獄へ墮ちるぞ！　惡黨め、おれの馬を何處か分らん處へ引張ッてつて、繫いでしまやァがつた。此上、四尺と歩かして見ろ、おれは息が切れッちまはァ。……さうだ、まだきッと樂に死ねる、彼奴を叩き殺した罪で首イ絞められさへしなけりや。此二十二年てもの、絶交しようかと思つてたんだが、つい會ふと、奴の口前にごまかされッちまふ。惡黨め、俺に惚れ藥を飲ませやがつたので無けりやァ、おれ首絞められてもかまはねえぞ。きッと然うだ。おれに惚れ藥を飲ませやがつたんだ。……ポインス！……ハル公！……二人とも時疫に取つかれやァがれ！……バードルフ！……ピートー！……あゝ、腹

空になつて死にさうだ、一足と蹈み出して、追剝なんかする前に。　眞人間になつて、あいつらの手を切るのが、酒飲むのと同格の善い事でねえやうなら、俺は物を食ふ人間の中の最大惡黨だ。……あゝ、かういふ山坂路を四間と歩くのァ、おれに取つちやァ三十里にも當らァ。　それを酷い奴ら、よく知つてやがるのだ。　畜生め、うぬ、どろぼう同士の癖に、義を守りやァがらねえ！

此時奥にて口笛聞える。同じく口笛を鳴らして

フヒュー！……時疫にでも罹りやァがれ、どいつもこいつも！　やい、馬をくれ、馬を。　惡黨、早く馬ァ持つて來て、首イ絞められてしまやァがれ！

王子　王子又木かげから出る。

王子　やかましいよ、布袋肚！　そこへ突伏して、地びたへ耳をつけて聽いて見な、もう旅人の來るのが聞えさうなものだ。

フォル　おれを起す杖でもあるのかい、ぶッ倒れッちまつたら如何するよ？　うんにや、おれはもう一足だつて此肉體を持つちやいかんぞ、お前のお父さんの金庫の中の有りッたけの金貨をくれると言つたつて。……どうしておれを如是に間抜扱ひにするんだ？

王子　馬抜け扱ひ？　だァれも馬抜け扱ひなんかにしやしないよ。　お前が自分で以て、勝手に馬に抜け出されてしまつたんぢやないか？

フォル　（調子を變へて）後生ですよ、ハル親王殿下、おれの馬を引張つて來て下さいよ、ねえ、もし、親王殿下。

王子　こん畜生！　おれをお前の馬丁扱ひにするのか？

フォル　えいッ、お前なんかァ、その靴下締で、その親王殿下紐で以て、首イ縊つてくたばッちまつたはうが可いんだ。　記えてろ、おれが捕まりや、何もかも喋舌ッちまふから。　今に見ろ、お前の事を、何もかも小唄に作らせて、卑な節で、

歌ひ歩かせてくれなかつたら、おれに毒を注れた酒を飲ませてくれ！……
惡戯も斯う惡く嵩じちや、おら大嫌ひだ。

ガッヅヒルとバードルフとが假裝して先に立ち、ピートーをつれて出る。と、他方からポインスも出る。

ガッヅ　（だしぬけに大聲で）やい、待てッ！

フォル　（びつくりして、べたりとなつて）待つよ、體が言ふことを聞かないから。

ポイン・（フォールスタッフをなだめて）あゝ、ありや此方共の指圖役だよ。聲で解る。……おい、バードルフ、どうだね？

バード　覆面を掛けるんだ、覆面を。　みんなが掛けるんだ。　今王さんの御用金が澤山岡の方からやつて來るとこだ。　王さんの金庫へ納る金だ。

フォル　うそを吐け、惡黨。　王さんの酒店へ納る金だい。

ガッヅ　あれだけ、入りやァみんな揃つて浮び上るせ。

フォル　絞罪臺の上へか？

王子　さ、お前たち四人は、あの狹い路ッとこで遮斷めな。　ネッドとおれはあの下ッとこを歩いてゐよう。　もしか奴らが逃げ拔けるやうだつたら、おれたちが引受ける。

ピート　何人ぐらゐ居るかねえ？

ガッヅ　八人か十人だ。

フォル　（ぎよッとして）ぢや、あべこべに剝がれやしないかい？

王子　おや、士爵ジョン布袋肚は臆病者なのか？

フォル　さ、同じく士爵ジョンでも、お前のお祖父さんの士爵ジョン瘦人さんのやうに瘦ッぽちぢやァないが、臆病者ぢやァないね。

王子　其判決は、ま、試驗の上としよう。

ポイン　（フォールスタフに）ジャックさん、お前の馬は、あの生垣の後ろに居るよ。　入用

なら、往つて連れといで。　さよなら、ぬかりなさんなよ。

王子先に立ち、ポインスを連れて行きかける。

フォル　かうなると、奴を撲り附ける譯にやァいかん、首を絞めるぞといはれたつて。

王子　（ポインスに小聲で）ネッド、假裝の道具は何處にある？

ポイン　すぐそこにあります。こッちへ竊といらつしやいまし。

二人入る。

フォル　さ、みんな可いかい？　どうぞ仕合せがようございますやうにだ！　みんなぬかるな。

旅人大勢話しながら出る。

甲旅人　ねえ、あなた。　馬はみんな小僧が岡下へ引張つていつてくれますから、お互ひに些と歩くことにして脛を休めませうよ。

フォールスタッフらの賊群づかゝと前へ出て

賊群　待てッ！

旅人らうろたへ騒いで、地べたに平伏して

旅人ら　イエスさま、どうぞお助け下さい！

フォル　撲て。　叩き倒せ。　野郎共の喉を打切ッちまへ。　あゝ！　うぬ、けがらはしい毛蟲野郎の鹽豚喰ひ野郎め！　若々してやがるのが氣にくはねえ。叩き倒せ。　面の皮ァ引剝いでやれ。

旅人ら　あゝ、こりやもう身代限りぢや！　もう何もかも駄目になつてしまうた。

フォル　おのれ、布袋肚の惡黨めら！　なに、身代限りだ？　虚を吐け、肥ッちやうの卑吝漢め！　有りッたけの財産を持つて來てゐやがりや可いのに！　えゝ、うせう、うしやァがれ、鹽豚め！　何だと？　若い者こそ生きんけりやならんのだ。　なに、大審査官を勤めた者だと？　へッ、審査は此方共がしてくれらァ。

旅人らの懐中物を奪ひ、縛つておいて入る。

王子とポインスと他方より出る。

王子　逆まなことだ、良民が悪黨に縛られた。……（ポインスに）さ、これから二人であの悪黨共の奪つた物を奪つて、愉快にロンドンへ歸つて行かう。向ふ一週間の笑ひ話の種だ、一月は笑ひつゞけられる。好い滑稽種だ。

ポイン　お隠れなさい。奴らが來ました。

フォールスタッフら又出る。

フォル　さゝ、みんなで分取にして、夜の明けんうちに馬に乘っちまはう。王子とポインスめは臆病者の骨頂だ、で無きや、世の中に公平な評てものは有りやしねえ。ポインスの奴ア鴨だけの勇氣も有りやしねえ。

一同寄りこぞつて分捕品を分配しようとする。

王子とポインスが覆面して拔劍し、だしぬけに躍り出る。

王子　金を渡せ！

ポイン　悪黨めら！

一同狼狽する。フォールスタッフは、ほんの二打ち三打ち抵抗して見て逃げる。皆々、分捕品を殘して於て、逃げて入る。

王子　難なく手に入つた。さ、愉快に乘り出さうぜ。どろぼう共はちり〳〵ばら〳〵になっちまつた。怖がつてるから、一しよになり得やしない。てん〴〵に相手の者を警察官だと思ひちがへてゐやがる。ネッドや、さ、往かう。フォールスタッフめ、汗をだら〳〵ぽた〳〵と落して、逃げながら痩ッ地へ肥料をしてやがる。をかしくッて〳〵、で然きや可哀さうだと思ふのだけれど。

ポイン　どうです、奴のあの吠方てのは！

入る。

第三場　ウァーウォース城。

熱拍車(パーリー・パーシー)只ひとりで、マーチ伯ジョールジ・ダンバーから送つてよこした書狀を讀みつゝ出る。(此マーチ伯は蘇國のマーチ伯で、同じマーチ伯と名宣つてゐる英國のモオチマーとは別人である)。ウァーウォース城はパーシー家代々の居城である。

熱拍　「然れども自分一個としては、御一門に對する敬愛上、直にも參會せまほしく存ぜざるにもあらず。」　存ぜざるにもあらず！　ちや、何故存じようとしないのだ？　我一門に對する敬愛上だ？　之によると、奴ア此方のよりも自分が家の納屋の方を大切に思つてやがるのだ。……もう少し讀んで見よう。「貴下の計畫は危險なり」。　そりや知れた事だ。　然う言や、風を引

くのも危險だ。　眠るのも、飲むのも。　だが、おい、拔作さん、此危險といふ荆棘から、安全といふ花が摘取られる事があるよ。「貴下の計畫は危險なり、貴下の列擧せられたる同志は信賴すべからず、時機其者も宜しきに適はず、而して企圖全體が、其對抗の大いなるに比して、餘りに輕きに失す」。　足下は然う斷言するかい？　果して？　敢て再び言ふよ、足下は淺薄な、臆病な土百姓だ、さうして虛言者だ。　ま、何といふ意氣地なしだ！　今度の企圖は、誓つて古今の妙計だ。　身方は悉く忠誠無二の手合だ。　案も好し、身方も好し、希望も十二分だ。　傑れた計畫だ、最上等の身方だ。　何て冷淡な臆病野郎だ此奴は！　現に、ヨオク卿が既に此計畫なり、大體の方針なりに贊成してるぢやないか？　誓言？　今こゝにゐやがりやゝ、奴の嬶の扇子かなんかで奴の頭を叩きのめしてくれるのに。　俺の爺がゐるし、伯父がゐるし、俺がゐるぢやないか？　それにエドマンド・モオチ

マーがゐる、ヨオク卿がゐる、オーエン・グレンダワーがゐるぢやないか？　まだ其他にドーグラス一家がゐる。　來月の九日には、彼等が皆な兵を率ゐて會合すると書面で言つて來てるぢやないか？　或者はもう既に出發してるぢやないか？　何て邪宗信者だ此奴は？　不信者め！　や！　待てよ、或は、臆病未練の餘りに、奴め王の許へ往つて、我黨の陰謀を傾瀉けるかも知れない。　おゝ、此體を二つに分けて、奴を撲り附けてくれたい。こんな水ッぽい奴を立派な獻立の一品に加へようなんて思つたのが大癡呆だ！　畜生！　王に告げるなら告げやァがれ！　こッちは覺悟の前だ。いよ〳〵出發しよう。

パーシー夫人出る。

夫人　どうしたのだい、ケート！　もう二時間經つと、別れなくちやならんよ。おゝ、あなた、何故あなたは、そんな風に、いつも〳〵、お一人ッきりでお出で遊ばすの？　わたくしに、どういふ不埒がございまして、此二週間といふもの、わたくしをお寢間からお遠ざけになつたのです？　あなた、何故物も食らず、御安眠もなさらず、不愉快さうにばかりなすつていらつしやるのです？　なぜ下ばかり見ていらしッて、お一人でいらつしやりながら、時々悸となさるのは如何いふわけです？　なぜお顏に活々した血の色がなくなつたのですか？　いやいやァな、陰氣な御心配事ばかりにお氣を奪はれ遊ばして、其理由をおたづねする大切な權利をさへ妻たるわたくしに與へて下さいませんのは、如何いふわけです？　うたゝ寢を遊ばした時、お傍にゐましたが、いろ〳〵寢語をおつしやつた、それが皆な怖ろしい戰爭のお話でしたの。躍り跳るお馬に號令を掛けたり、「進め！　勇敢に！」なんかと呼ばつたり遊ばすの。　それから突貫だの、退却だの、塹壕だの、天幕だの、木棚だの、外郭だの、胸壁だの、バシリスク砲だの、カノン砲だの、

カルヱリン砲だの、捕虜の償金だの、殺された兵卒だのとおつしやいましたの。みんな激しい戰爭の事柄ばかりでした。何でも、軍のことばかり思つていらつしやるので、夢にもそれを御覽なさるのでせう。お額の上に、冷汗の玉が、攪廻したばかりの流れの上の泡のやうになつてゐました。それからお顔が急に變つて見えました、何か俄に重大な命令か何かを

受けて、はッと思つて息を止めた時のやうな風に。おゝ、あれらは何の前兆でせう？　何か容易ならんことを考へていらつしやるのでせう？　それを知らせて下さらないやうなら、わたくしを可愛がつて下さらないのです。

此時家來一人出る。

熱　（家來を見て）おい、何だ？……ギリヤムスはもう出掛けたか、書簡束を持つて？

家來　へい、一時間も前に出掛けました。

熱　バトラーは町奉行の許から馬を持つて來たか？

家　へい、一疋だけは只今持參いたしました。

熱　どんな馬だ？　栗毛の、耳を切つた奴か、え？

家　それでございます。

熱　その栗毛を俺の乗料にしよう。　よし、直に乗らう。……おゝ「希望！」……パトラーに、奴を庭内まで牽出しとけと言ひつけろ。

家来入る。

夫人　ねえ、あなた、もし。

熱　え、何ですッて？

夫人　ま、何があなたを然う外方へ連れて行くのです？

熱　外方へ？　馬が連れて行くのだよ。

夫人　あら、ま、人を！　鼬鼠だつて、あなたの今のお心持のやうに、然う氣まぐれぢやありませんわ。　ほんたうに、仔細をおつしやつて下さい、ねえ、ハーリー、どうぞ。　もしや兄のモオチマーが相續權の主張を企てゝ、あなたに其後援を願つてよこしたのぢやありませんか？　けれども萬一お出かけになるやうだと……

熱　（ちやかして）あそこまで歩いて出かけちや、草臥れッちまふよ。

夫人　まァさ、よう、はぐらかさないで、正直に、ほんたうに返辭をして下さい。ハーリー、わたし、あなたの指をつねりますよ、ほんとに、若し何もかも話して下さらなけりや。

熱　えいッ、うるさい！　あつちへ！　うるさいてば！　お前を可愛がる！　可愛がつちやゐないよ。　ケート、お前の事なんか思つちやゐないよ。　偶人を玩具にしたり、唇で試合をしたりしてゐる時節ぢやないんだ。　鼻ッ柱を血だらけにしたり、腦天を叩きわられたりしたのが、却つて立派に通用する世の中だ。……（奥に向つて）さ、早く馬を持つて來い！……え、ケート、何ですッて？　何か用かい？

夫人　ぢや、わたしを可愛がつちやゐないのですね？　ほんとに？　（涙聲になつて）ぢや、ようございます。　あなたに可愛がられないと定れば、自分でも可愛が

りません。‥‥可愛がつちや下さらないのですね？　いゝえ、おつしやつて下さい、本氣か、戯言かを。

熟　まァさ、御覽よ、馬に乘るのを。馬に乘ッちまやァ、誓ふよ、無數にお前を可愛がるて事を。だがね、ケート、此後とても、何處へ往くだの、何故だのッて、尋問に及ぶのは御免だよ。往かんけりやならん處へは往かんけりやならんよ。だから、つまり、今夜は、その、ケートさん、あんたに別れんけりやならんよ。わたしは貴女を聰明者と信じてゐる、けれどもパーリー・バーシーの妻たる以上に聰明ぢやァないんだ。貴女は堅實だよ、けれども女だ。さうして貴女は、どの婦人よりも以上に、祕密を守り得る。と言ふのは、全然知らないことは他言のしやうがないからね。そこまでは、ケートさん、わたし貴女を信じてるよ。

夫人　え、そこまでは？

熟　それ以上は、只の一寸もだ。だがねえ、お聞きなさい、わたしが往く處へ、つまり、貴女も往くことになる。わたしは今日出發する、貴女は明日だ。それで可いだらう、ケート？

夫人　（歎息して）あゝ爲方がない。

入る。

第四場　酒亭、猪頭軒。

王子とポインスと出る。

王子　ネッド、おい、賴む、その脂肪臭い室から出て來て、ちッと笑ひ話の手傳ひを

してくれ。

ポイン　ハルさん、どこにゐたんだね？

王子　大樽が六七十、鈍漢が三四頭といふ處にゐた。　パス調子の下等なのも、此以下は無からうてのを引搔き鳴らして見たよ。　おれはあの給仕人共と兄弟分の約束までして、トムとか、ヂップとか、フランシスとか、耶蘇名で呼び合ふ仲にまでなつたのよ。　で、奴らはもう誓言を爲始めてゐる。　やれ、あんたは王世子さまであらつしやるけれども、實際お謙遜で、おそろしくお丁寧さまであらつしやるの、やれ、あの高慢なフォールスタッフとは異つて、磊落坊だの、小氣味の好い若い衆だの、好い小僧ッ子だの……と、實際そんな風に呼びやァがつて！　……おれが英國王となつた日にやァ、それこそイーストチープ中の若い者にや大人氣だなぞと言やァがる。　奴らは、大酒を飲むことを「鼻の緋染」と呼んでゐる。　飲みかけて、くづッかしてると、エヘンと咳をして、すぐにやッつけろと催促をする。　つまり、おれはたッた十五分ばかりで以て、すッかり卒業した。　もうどんな鑄掛屋とでも、奴らの符牒を使つて、一生飲みッ競が出來るといふもんだ。　おい、ネッド、惜しいことをしたよ、その一戰にお前が參加する名譽を得なかつたのは。　其代り、ネッド、さ、些少だが此砂糖を與らうよ、おのしの名前に甘味を附けるために。　こりや今あの見習給仕が俺の手へ抛り込んだんだ。　彼奴の喋舌る英語は數が定つてるから可笑しいな。「八シリングと六ペンス」、「よういらつしやい」、それから黄色な聲で「只今、只今！　半月室で父なし兒（酒の名）を三合だけですぜ。　ようごすかい？」とか何とか。……それはさうと、ネッドや、フォールスタッフが來るまでのとこが退屈だから、斯うしよう、おのし、何處かそこいらの小座敷に立つてゐなよ。　おれはあの見習小僧を呼んで、何のために、おれに砂糖をくれたかを問かう。　その間おのしは連續的に

「フランシス〳〵」と呼ぶんだ。　すると、奴め、おれに對つて「只今、只今！」とばかり言ふことになるだらう。……さ、早く引退んで。　おれが實例を見せるから。

ポインス　入る。すぐ奥で

ポイン　フランシス！

王子　其呼吸、其呼吸！

ポイン　フランシス！

若い給仕人フランシス出る。

フラン　へい、只今、只今！……おい、ラルフ、柘榴の室を見てくんな。

王子　フランシス、おい、一寸。

フラン　へい。

王子　フランシス、汝は、もう何年奉公してる？

フラン　實際、五年になります、へい、ですから……

ポイン　（奥にて）フランシス！

フラン　へい、只今、只今！

王子　五年！　錫壜をチンカラいはせるだけに五年の年季は長いなう。　だが、おい、フランシス、汝は其年季證文なんか裏切っちまつて、尻に帆をかけて、さらんばんをきめ込まうて勇氣は無いのかい？

フラン　へい、そりやもう貴下、有りッたけのお聖書さま掛けて、隨分その何でございます……

ポイン　（奥にて）フランシス！

フラン　へい、只今！

王子　フランシス、汝は幾歳だ？

フラン　かうつと……次のマイケイルマス（九月二十九日）には、丁度……

ポイン　（奥にて）フランシス！

フラン　へい、只今……御前、どうか一寸お待ちなすつて。

王子　いゝや、まゝ、一寸待てよ、フランシス。　汝が與れたあの砂糖は……ありゝ一錢分ぐらゐあつたらう？

フラン　せめて四錢分もあげときやゝうございましたに！

王子　あの代として一千ポンドも與らうよ。　いつでも欲しい時に然う言へ、與るから。

ポイン　（奥にて）フランシス！

フラン　只今、只今！

王子　（わざと間違へた風をして）え、只今だ？　今は與らないよ。　明日與るよ。　で無けりや火曜日。　な、フランシス、つまり、何時でも汝が欲しいといふ時に。　だが、なう、フランシス！

フラン　へい？

王子　ぢや、汝はいよ〳〵引剝いでしまはうてのか？　あの柔革胴衣の、水晶鈕の、五分刈頭の、瑪瑙指輪の、鼠股引の、毛絲紐の、辯口の好い、西班牙囊の……

フラン　（呆れて）ま、御前、そりや何のことでございます？

王子　ぢやゝ、何か、赤の父なし兒（酒の名）の外に酒はないのか？　フランシス、おい、氣を附けな、其白布子が汚れるぜ。　なゝ、バーバリーぢや、そんなに高かゝないせ。

フラン　へ、何でございますッて？

ポイン　（奥にて）フランシス！

王子　おい、馬鹿、早く行け！　あんなに呼んでるぢやないか？

王子とポインスとが代る〴〵チャンポンに呼び立てるので、

フランスは行きかけたり戻つたり、うろ〳〵して、いろ〳〵をかしみ。

酒場の亭主が何事かと思つたらしく出て來て、フランスに

亭主　何だ、突立つて呼ばれるのを聞いてる奴があるか？　奥の客人に注意しねえか、とんちき？　（フランス入る。亭主は王子に）御前さま、士爵ジョンさんが、他に五六人御一しよに、店口へござらッしやりました。　お入れ申しませうか？

王子　ま、少時そのまゝにしといてね、それから、ゆつくり扉を開けな。（亭主入る）。

ボイン　ボインス！

王子　へい、只今、只今！

とフランスの口眞似をしつゝ出る。

王子　おい、フォールスタッフが他の盜賊共と一しよにやつて來たよ。　戯けようか？

ボイン　蟋蟀のやうにおやんなさいよ。　それはさうと、あの給仕人の奴をあんなに玩弄物にしたのは、何故かね？　何の爲になるのだね？

王子　なァに、只その、あらゆる氣分を味はつて見ようていのだ、アダム爺さんの太古から、つい此夜中の十二時といふ嫩弱の現在までに、成立ち得た限りのあらゆる氣分をね。・・・・

フランシス又出る。

フラン　何時だい、フランシス？

王子　へい、只今、只今！　（といひすてゝ入る）。

記え込んだ語の數が鸚鵡以下と來てゐる、而もあれで女の生んだ子なんだ！　奴の役廻りは階子段を登つたり降つたりだ。　一箇幾ら、一箇幾らの勘定より外に口上はない野郎だ。・・・・（ボインスに）おれは、まだ如何もあの

バーシーの料簡にやなれない、あの北の熱拍車の。　あれは、朝餐前に、蘇國人を六七十人も斬殺して、手を洗つて「あゝ斯う平和つゞきぢや詰らん！　何か起りやいゝになァ」と其妻に言ふと、妻が「おゝ、あなた、ハーリーさん、けふは何人お殺しなすつて？」といふ。「おい、栗毛に水を飲ましてくれ」と言ッ放しておいて、それから一時間も經つてから「十四人ぐらゐだらうよ。　へッ、ほんの些少だ。」といふ。……おい、フォールスタッフを呼込んでくれ。　おれがバーシーの眞似をして、さうしてあの肉の塊り野郎に奴の妻のモオチマー夫人の役をさせよう。　Hiro! と奴、叫るだらう。おい、呼んでくれ、助骨を、脂肪のお化けを。

フォールスタッフ、ガッツヒル、バードルフ及びピートー出る。フランシス、酒を携へて、つゞいて出る。

ポイン　待つてたよ、ジャック。　何處へ往つてたのだ？

フォル　（睨み附けて）臆病者め、どいつもこいつも疫病にとつかれて、くたばつてしまやァがれ！　畜生、べらぼうめ、ほんのこッたい！……（フランシスに）やい、小僧、酒を一杯持つて來い。……こんな目に逢ふくらゐなら、股引屋に商賣替をして、補綴仕事をして、足の先までも編下したはうが優だ。　臆病者め、どいつもこいつも疫病にとつかれてしまやァがれ！……（フランシスに）やい、野郎、酒一杯くれろッてば！……もう膽ッ玉が種切れになッちまつたのか？

怒鳴りながら酒を飲む。

王子　（ポインスの肩に凭れながら、ポインスに）おのしは太陽が牛酪の皿を接吻するのを見たことがあるかい？　牛酪め、涙脆いもんだから、すッかり太陽の辯口に嗛されて、でれ〳〵になッちまふ。　それを見たことがあるなら、あの脂肪のお化けが汗を垂すのを御覽。

フォル　惡黨め、此酒ン中へも石灰を入れやがつたな。　人間て惡辣な、へちやもくれのしやがることに碌なことァありやァしねえ。　それでも尙臆病者よりァ石灰の入つてる酒のほうが優だ。　へちやもくれの臆病者めが！……ジャックさんよ、お前はお前でやつて行きな、いつ往生するにしろだ。　あゝ此世の中に男魂てものが忘れられッちまはねえ以上、おれァ卵を產ッちまつた鯡よろしくだ。　今の英國にや、善人で絞罪にならねえでゐる者ァたッた三人ぎりだ。　其中の一人は肥つてゝ、もう大分いゝ齡だ。　あゝ、世直し世直し！　わるい世の中だ。　いつそ機織屋にでもなつて、唄ァ歌つて暮しやァよかつた。　讃美歌でも何でも好いから。　臆病者め、どいつもこいつも疫病に取附かれやがれだ！

王子　おい、大囊さん、どうしたい？　何をぶつくさ言つてるんだ？

フォル　王子が何だ！　お前のやうな奴ァ、木刀で以て、家來も何もかも一しよくたに、雁鴨を追拂ふやうに、此王國から叩き出してくれねえやうちやァ、おれは男ぢやねえんだ。　おのしなんかを王世子さまが聞いて呆れらァ！

王子　おや〳〵、やくざ者の四斗樽男が、どうしたといふのだ？

フォル　臆病者でねえかよ？　返辭が出來るなら、して見ろ。……やい、そこにゐるのはボインスだな？

ボイン　誓言！　此布袋肚め、おれを臆病者だと言やがつたからにや、さ、突殺すから、然う思へ。（劍を拔く）。

フォル　（急に起ち上つて、あわてゝ退りながら）なに、おれが汝を臆病者と言つたと！　さうおれが言ふよりも前に、汝は地獄へ落ちるだらう。　どッこい、大丈夫、駈ッ競なら、負けやァしねえぞ。（と王子の背後へ逃げ込みながら、王子に）成程、お前の後姿は好いや、猫脊ぢやないや、これぢや尻から見られても平氣な筈だ。（强くなつて）あんなことをして、あれで後援といへるかい？　あんな後

援が何になる？　後からでなく、前から向ひ得るやうな奴を伴れて來てくれ。・・・・（フランシスに）やい、酒を持つて來い。　ほんのこッた、まだ今日は只の一杯も飲んぢやァゐねえのだ。

王子　おや、此うそッつきが！　まだ、飲んだばかりの口を拭かない位ゐぢやないか？

フォル　おんなじこッたい。（と飲みながら）臆病者め、うぬ、糞ッ、どいつもこいつもだ！

王子　どうしたといふんだ？　何故さう威張るんだ？

フォル　どうしたッて！　憚んながら、此お四人さまが、一千ポンドて大金をお奪りになつたんだい、今朝。

王子　其金は何處にある、ジャック？　どこに在るんだよ？

フォル　どこに在るッて！　奪られッちまつたんだ。　たッた四人へ百人も掛つたんだから爲方がない。

王子　え、百人？

フォル　ほんのこッた、おれァ、二時間ぶッつゞけて、奴ら十二人を相手にして鎬を削つたんだ。　命拾つたのは全く奇蹟だ。　下衣を突通されたのが八たびよ、細袴を四たび。　盾なんかも幾度突切られたか知れない。　劍の刃が、まるで鉈のやうになッちまつた。・・乞ふ、其證を見よだ！（と腰の劍を引拔いて見せながら）あんな偉い働きをしたのは始めてだ。　けれども何にもなりやァしねえや。　うぬ、糞！　臆病者め！・・・・・（バードルフらへ思入して）奴らに聞いて見るが可い。　もしか奴らが有りのまゝを言はねえやうなら、奴ら

王子　おい、みんな、實際どんなだつた？

ガッツ　わッしらが四人で以て、十二人ばかりの奴らを襲つて・・・・

フォル　なァに、大丈夫、十六人はゐた、十六人はゐましたよ。

ガッヅ　とにかくふん縛ッちまつたんでしたが・・・・

ピート　いゝえ、まだふん縛りやァしませんでしたよ。

フォル　惡黨、何をいやがる？　縛ッちまつたんだい、どいつもこいつも。それが嘘なら、おれァ猶太人だ、エブリューだ。

ガッヅ　それから獲物を分けようとしてますと、だしぬけに新手の奴が、六人だか、七人だか・・・・

フォル　やつて來て、さうして縛ッといた奴の繩ァ解いて、一しよになつて襲つて來たんで。

王子　それを悉皆相手にしたのかい？

フォル　みんな！　貴下が悉皆てのは如何いふ意味だか知らんが、おれは慥かに五十人ばかり相手にしたね、これが嘘だつたら、おれは赤蘿蔔の化物だとい

はれても爲方がない。二十人か三十人、いや、大丈夫、五十人からの者が、此齡を取つたおれ一人に襲つて來たのでなかつたなら、おれは二本脚の動物ぢやァねえのだ。

王子　つい一人二人殺しやァしなかつたかい？　そんな事のなかつたやうにと神樣に祈ッときな。

フォル　今更祈つたつて駄目だ。つい二人やッつけてしまつた。何でもゴム引布子を被てやがつた惡黨をたしかに二人やッつけたよ。ねえ、ハル公、ほんのこッた、若しこれが嘘だつたら、おれの面に唾イ吐ッかけて、おれを馬ッて呼んでくれ。なァ、お前、おれの得意の防禦構を知つてるだらう。・・・・こゝに斯うおれが構へて、斯うその劍尖を向けた。すると、ゴム引布子の惡黨四人が・・・・

王子　え、四人だ？　つい今二人といつたぜ。

フォル　四人だよ……四人ッて言つたんだよ。

ポイン　さうだ〳〵……四人て言ひましたよ。

フォル　その四人の奴めが、ふん揃つて、一生懸命に突掛つて來やァがつた。しやにむにおれは、盾で以て其七本の劍尖を丁と受けた。

王子　七本？　だつて、つい今四人と言つたらう？

フォル　ゴム引布子の奴だぜ。

ポイン　さうさ、ゴム引布子が四人だよ。

フォル　七人だよ、此欄掛けて。（と十字形の欄を見せて）で無きや俺は惡黨だ。

王子　（ポインスに小聲で）おい、うつちやッときなよ。今に必然また殖えるよ。

フォル　おい、聽いてるかよ、ハル公？

王子　あゝ、肅と聽いてるよ、ジャック。

フォル　聽いてな。たしかに聽く價値がある話だ。で、そのゴム引布子の、今言つたその九人の奴らが……

王子　そら、もう二人殖えた。

フォル　つい、その、えてものゝ頭が折れたもんだから……

ポイン　そいつァ痛かつたらう。あはゝゝゝ！

フォル　たぢ〳〵と退りはじめやがつた。と、おれが短兵急に追詰め追掛け、忽ちの中に十一人の中の七人をやッつけてしまつた。

王子　おや〳〵、驚き入つたねえ！　たつた二人のゴム引布子の中から、とうとう十一人飛び出したね！

フォル　ところが、きッと惡魔めがさせたんだらう、ケンダル綠を一着に及んだ頭株の惡黨が三人、おれの後ろから、だしぬけに切つてかゝつて來た。何しろ、眞黑闇だからね、ハル公、お前のその手の先さへ見えねえくらゐだ。

王子　（態度を改めて、冷然と）おのしが拵へさうな嘘ッ話だ。鼻の先の山もよろしく

といふ程の、明々白々の大嘘だ。　やい、土塊頭の、食ひしんぼうの、安本丹の、助平爺の、脂肪樽野郎の・・・・

フォル　（わざと驚いて）おや〈〈〈！　氣が狂つたのか？　事實は事實だらうぢやァねえか？

王子　だつて、どうしてケンダル綠だといふことが分つたい？　暗くって、手の先さへ見えないくらゐだといふのに？　さ、どうして見えた？　其返辭が出來るか？　さ、返辭をしろ。　ジャック、さ、理由を言へ。

フォル　おや、おれを强迫しようてのか？　誓言！　吊墜しなり、石こづめなり、どんな拷問機械に掛けやがつたからッて、强迫されて言ふもんかい？　理由を言へ？　うぬ、其理由が木苺ほど夥多にあつたつて、强迫なんかされて、誰にだつて言ふもんかい、おれが！

王子　もう止さう、如是いたづらは。　此赤ッ面の、臆病者め、寢たがり野郎の、馬

の脊へし折り野郎の、おッそろしい肉の山の・・・・（と止め度なく並べかける）。

フォル　（眞けん氣になつて）おのれ、食ふや食はずの、蛇の脱衣よろしくの、羊の舌の干物よろしくの、野牛の陽物の干物よろしくの、鱈の干物よろしくの・・・あ、息が切れる、汝に似た物を並べようとすると！・・・・裁縫屋の尺よろしくの、劍の鞘よろしくの、弓の箱よろしくの、押立てた細刀よろしくの・・・

（といひかけて息を切らし、苦しがる。）

王子　ま、ちッと休んで、ゆっくり言ひなよ。　さうして、いよ〈〈其劣等な比喩が種切れになッちまつたら、おれの宣告を聽きな。　そりやたッたこれッきりだ。

ポイン　（フォールスタフに）おい、ようく聽いてな。

王子　お前たち四人が四人の者を襲つて、それを縛つておいて、物を奪つたのを、おれたち二人は、ちやァんと見てゐたんだよ。　よく聽きな、事實を言や、お

前たちゃ、てんで一言もありやしないから。　それから、お前たち四人を襲つて、只一聲で以て悸え上らせて、其奪つた物をふん奪つてしまつたんだ。それを持つて來てるから、見せてやつても可い。　おい、フォールスタッフ、おのしは隨分敏捷に、上手に其臓物庫を引摺つていつたぜ、さうして「助けてくれ！」と叫りつゝ叫りつゝ逃げていつたぜ、まるで野牛の仔が鳴くやうな聲をして。　何て卑劣な奴だ汝は、劍にざざ〳〵なんか拵へて、激しく戰つた爲に、如是になつたなんて！　さ、どう糊塗す、どう僞計む？　どんな鐵面皮だつて、斯う明白になつちゃァ、逃路はあるまい？

フォールスタッフ　盾で一寸顏を隠す。

ポインズ　さ、どうだ？　おい、どう糊塗すより？

フォル　（盾を抛り出して）勿論、お前だてことは、とうに知つてゐたんだ、お前を造へなすつた其お方同樣によ。　ま、皆な、考へて見るがいゝ。　王世子さんを

おれの手で殺せるかい？　眞の王世子さんに手向ひが出來るかい？（と言ひつゝ劍を鞘に收めて）知つてる通り、おれァ、勇氣に於て、ハーキュリーズに劣るとは思はん。　けれども本能は怖ろしいもんだ。　獅子は眞の王の子にァ齒を觸れないといふが、成程、本能は偉いもんだ。　おれァ其本能の故で臆しちまつたんだ。　將來は自分をも（王子に）お前さんをも、今までよりは買上げるよ。　ま、これでおれが強い獅子だてことが分つたし、お前さんが眞の王子さんだてことも分つた。　それはさうと、金を持つて來てくれたのは有りがたいや。……おい、内儀さん、扉口を閉ッちまひな。　今夜は夜明しだ、お祈りは明日だ。　大將、兄貴、若い衆、豪傑、さ、有りッたけの仲間中の美い名前をお前たちに與れてやるぜ……（と一人々々に握手して）さ、陽氣にやらかさうぜ……卽席茶番でもやらうか？

王子　やらう。　筋はおのしの逃げ出すとこだ。

フォル　あゝ、ハル公、もうそりや言ひっこなし、後生だ。

内儀　クィックリー用ありげに急いで出る。王子を見て

内儀　あゝ、もし〳〵、王子さまの御前さま！

王子　や、何だい、御新さんの内儀さん！　何か用かい？

内儀　へい、あの、お父さまのお使ひだとおつしやいまして、士爵何の誰とでもおつしやりさうなお方が、貴下に御面會をお求めでございます。

王子　四匁でも五匁でも關つたことはない、酒の一升も飲ませて、母公の許へ追返しておしまひ。

フォル　どんな風の男だ？

内儀　お老人ですよ。

フォル　何で老骨なんかゞ此夜中に、寢床から出かけて來たか？　おれが往つて應對しようかね？

王子　どうか然うしてくれ。

フォル　大丈夫、すぐ追拂つてくれる。

入る。

王子　さ、みんな聽きな。（皮肉に）お前達は、ほんとに、よく戰つたよ。……ピートーもなァ。……バードルフもなァ。　お前たちも獅子だ、つまり本能で逃げたんだな。　眞の王の子には齒を觸れないといふんだらう。　へッ、決して！

バート　他の奴らが逃げ出したから、逃げたんです。

王子　なァ、正直に言ひな、フォールスタッフの劍が、どうしてあゝぎざ〳〵になつたんだい？

ピート　へい、ありやその、短劍で以て叩き附けたんです、さうして斯うしときや、大丈夫、戰つた爲に然うなつたんだと、貴下に信ぜさせることが出來るからって、わたしらにも勸めて、同じやうにさせました。

バード　さやうです。それから、濱麥で以て鼻を突いて血を出させて、それを衣服に塗附けて、大勢の人を斬つた血だと言へ、と吩咐けたんです。で、つい、此七年間てものしたことのねえことをしたんでさ。あんまり怪しからねえ詐謀だから、おれ、それを聞かされた時にや、顔が眞赤になつたです。

　　このバードルフは大酒くらひで、其報いが顔に現はれて常住眞赤な顔をしてゐるのである。とりわけ其鼻は火が附いてゐるやうに赤い。それが此男の特色である。

王子　嘘を吐け、汝は十八年前に何處かで酒を一杯盗んで、現場で捉つてからてもの、始終のべたらに赤い顔をしてるぢやァないか？　面には火を燃やし、腰には劍をぶら下げてゐながら、汝は逃げたね。ありやどういふ本能の作用だ、え？

バード　（憤として）御前、（とおのが赤面へ指さしをして）此光り物を御覽ですか？　此火の氣を？

王子　うん。

バード　これは何の前兆でございませう？

王子　さうさ、たかゞ、泥酔になり、素寒貧になる前兆だらう。

バード　いゝえ、こりや疳癪持の證據でございますから、御用心なさいまし。

王子　なァに、たかゞ兇狀持の證據だ。今に火あぶりになる前兆だ。……

　　バードルフ憤れ返つて入る。

　　フォールスタッフ又出る。

あ、ジャックの痩ッぽちが戻つて來た、骨ばかりが。……どうだつたい、お腹へ一ぱい詰物をしてる先生！　（といひながら、フォールスタッフの肚をつく〳〵眺めて）ジャック、お前はもう何年自分の膝を見ないんだ？

フォル　おれの膝を！　ハル公、お前ッくらゐの齡にゝ、俺だつて胴の圍が鷲の爪ほ

どもなかつたから、どの町年寄の指輪の中へでも這込むことが出來たもんだ。　苦勞はしめえもんだね！　溜息をしつゞけると、體が自然と膀胱のやうに脹れ上ッちまふ。　それはさうと、士爵ジョン・ブレーシーが、親父さんの吩咐で、けつたいな知らせを持つて來た。　貴下は、明朝早く出廷せんけりやならんよ。　あの北の狂人野郎のバーシーと、あのそれ、ウェールスの、何とか言つたつけ、それ、惡魔に棒打をくらはせ、惡魔長を阿呆扱ひにして、鎌槍の十字形で家來になる誓言をさせたとかいふ奴……畜生、あゝ、何とか言つたつけ？……

ポイン　あゝ、グレンダワーよ。

フォル　オーエン、オーエン、其奴だ。　それから奴の婿のモオチマーとノオサンバランドの老爺とあの一等元氣な蘇國人のドーグラスめが、そら、あの屏風を立てたやうな丘をも馬で走り登らうていふドーグラスめが……

王子　あの速馬の達人だらう、短銃で飛んでる雀を射落すといふ男だらう。

フォル　中つた。

王子　ところが、雀にやア迚も然う中りやアしない。

フォル　其惡黨めは、中々利かん氣の奴で、敗けても走らねえといふ話だ。

王子　だつて、今丘をさへ走り登るといつたぢやアないか？

フォル　馬鹿か！　馬ぢやア走るんだ。　けれども徒歩ぢやア一歩も動かねえ。

王子　成程、そりや本能の所爲だらう。

フォル　うん、其通り、本能だ。　で、まづ、そいつもゐる、モオデークて奴もゐる、尙其他に千人ばかりの青帽子がゐるんだ。　ウーセスターも先刻脫走したて事だ。　お前のお父さんの髭は、其知らせを聞いて、眞白になッちまつたさうだ。　おい、今に地所が、臭い鯖と同じ價で、幾らでも買占められる

王子　ぢや、何だね、此盛暑になつて、尙此内亂が續いてるやうだと、沓の鋲を買ふぐらゐの散財で、幾らも破瓜が出來るなう。

フォル　全くだ、其通りだ。　大分其方面で面白いことがありさうだ。　だが、なう、ハル公、お前怖ろしいと思はねえかい？　お前は此次の王さんになるんだが、運命とはいへ、あんな怖ろしい奴を三人まで敵にするてことが、二度とあると思ふかい？　夜刃のドーグラスに化物のバーシーに惡魔のグレンダワー！　お前はそれを怖かァ思はないかい？　體がぞく〳〵しやしないかい？

王子　うんにや、些も。　お前とは大分本能が異つてるよ。

フォル　ねえ、明日親父さんの許へ往くと、きッと怖ろしくひッ叱られるに相違ないから、後生だ、其分疏の演習をしておきなよ。

王子　ぢや、お前が假におれの親父になつて、おれの品行の糺問をして見な。

フォル　俺がか？　よし。　此椅子が王座で、此短劍が笏で、此座蒲團が金の冠だ。

王子　ふゝ、其王座が腰掛とも見え、其笏が鉛鞘の短劍とも見え、其金の冠が、けちな禿頭とも見えるからをかしいや。

フォル　えゝと、（四世王の假聲で）いさゝかでも聖德の火氣が燃え殘つてゐる以上、感奮しないわけにはゆくまい。……（自分に戻つて内儀を見返つて）おい、酒を一杯くれ、目を赤くしなけりや不可、泣いてゐたと見えるやうに。　感慨無量といふ風に物を言はんければならん。　カンバイシーズ王といふ呼吸でゆかうよ。

王子　（うや〳〵しく膝を突いて）先づ斯う膝を突くよ。

フォル　そこでおれの白だ。……（四世王氣取で、思入をして）公卿らは、暫時、かなたへ。

内儀　（こちへかれて、吹出して）おや〳〵！　まあ、あの眞面目くさつた顏付といつたら！

と笑ふ。皆々笑ふ。

フォル　（酔が廻つた口吻で、併し飽迄も四世王氣取で）諸卿、お氣の毒だが、どうか彼女を伴れて行つて下さい、泣いてゐる后を。　涙で彼女の目の水門が塞つてしまひさうだ。

内儀　（尙笑ひつゞけながら）おやまァ！　ほんとに、下等芝居そつくらだわねえ！　はゝゝゝ！

フォル　しッ！　しッ！　お樽さん、お瓶さん、默つて〳〵！……（又假聲で）ハーリー、予はお前が何處で日を暮さうと、どういふ手合を友達にしてゐようと、それを駭きはしない。　と言ふのは、加密爾列草は踏まれゞは踏まれるほど倍〻生長し、繁茂するからである。　けれども若い者は徒に月日を送ると、忽ち衰勞に及ぶ。　お前が予の子だといふことは、一はお前の阿母の證言もあるからだが、一は予も然う信じてゐる。　が、取りわけ、お前の其變な

目付と下唇の何となく阿呆らしく垂下つてゐる所に骨肉の證明がある。で若しお前が果して予の子であるなら、こゝが要點だ。　何故、予の子でありながら、世の嘲りを招くやうなことをするか？　大空の太陽ともあらう者が竊々歩きをして、竊と木苺を摘んだり何かしてならうか？　問ふに及ばんことだ。　英國王の太子ともあらう身が竊々盗賊になつて、民衆の巾着なんか引攫つてならうか？……いはずにやおかれんことだ。　ハーリー、おそらく豫て傳聞してもゐようが、世人の多くが普通、樫青と稱してをる品物がある。　右の樫青なる物は、古書に見えてをる通り、相觸るゝものを汚す。　お前が仲間にしてゐる輩が卽ちそれだ。　と言ふのは、ハーリー、予は今醉うて言ふのではない、泣いていふのだ、面白半分ではない、悲しいのである、只口で泣くのでない、心でも泣いてをるのである。　併しながら、お前の仲間中に、只一人だけ感心な男があるやうに聞いてゐる。　が

王子　其名前を知らない。

フォル　失禮ですが、それは如何な樣子の男でございませう？

王子　威嚴のある、全く立派な男だ。　肥滿した、愉快な顏付の、目に愛敬のある、起居動作の堂々たる男だ。　齡は五十位ゐか、或は六十近いかな。　あゝ、やつと思ひ出した、名はフォールスタッフだ。　よもやあの男が放蕩者だなんてことはあるまい。　何故って、美德が顏付に見えてをるからだ。　若し樹木の良否が其果で解り、果の良否が樹で解るものなら、直ちに予は、フォールスタッフは、賢者に相違ないと斷言する。　あの男だけを殘して、他は悉く放逐しなさい。　それから、一體今月は何處にゐた？　いたづら者、さ、それを言ひなさい。

王子　王子急に起ち上つて、

王子　ちッとも口吻が國王らしくないぢやないか？…　お前予になんな。　おれ

フォル　が親父の眞似をするから。

王子　おや、おれの位ゐを簒ふのか？……（と椅子を離れながら）お前が演つて、口吻なり、內容なり、眞面目さや威儀さがだ、おれの演つた半分だけでも出來りやア、おれを南京兎か軍鷄なんかのやうに、逆さ吊しにでもしてくんな。

王子　（代つて椅子に着きながら）先づ斯う構へる。

フォル　と俺が爰に立つ。……（衆を見返つて）どつちが巧いか審判してくれ。

王子　（四世王の假聲で）さて、ハーリー、お前は何處から來ました？

フォル　イーストチープから參りました。

王子　種々の容易ならん苦情を、お前に對して、申し出でてゐる者がある。

フォル　え、何ですッて？　べらぼうな、そりや悉皆嘘です。……（衆を見返つて）見てゐな、おれが見事に若い王子に成りおほせて見せるから。

王子　（尙假聲で）此不埒者が、べらぼうとは何だ？　以後面會は許さん。　汝の墮

落は實に甚しいと言はんけりやならん。畢竟、肥滿した老人に化けて汝に附纏つてゐるあの惡魔めの所爲だ。あの酒樽の化物のやうな汝の友だ。何故あんな氣まぐれの容器を友達にするのだ、あんな下等な粉篩ひ箱を、あんな水腫のお化けを、あんな大きな酒嚢を、あんな臓腑詰込みの大革鞄を、あんな牛の孕ませ丸燒て奴を、あんな翁さびた道化を、あんな白髮頭の半道を、あんな爺の横道者を、あんな老込みの虚榮餓鬼を、どうして汝は友達にするんだ？　試飲と大飲との他に、あいつに何の長所がある？　手際よく鳥肉を切つて食ふ以外に、どういふ小手先の藝がある？　猾いばかりが長所で、その猾いといふのも不埒なことに關してばかりで、何一つ感心する點はないぢやないか？

フォル　どうもまだよく了解いたしませんが、それは誰の事をおつしやるのですか？

王子　若い者を誘惑して、忌むべき、淺ましい墮落の淵におちいらしむるあの白い髭のセタンともいふべきフォールスタッフの事をいふのだ。

フォル　あの男ですか？　あれは知つてゐます。

王子　勿論、知つてゐる筈だ。

フォル　でも、あの男のはうがわたくし以上に不埒をしてゐるなんぞと言つては、知つてゐる以上を言ふわけになります。彼れは、成程、齡は取つてゐます、それは白い髭が證據です、が、それだけ氣の毒です。けれども、彼れを放蕩者だなんぞといふのは、お言葉ですけれども、全く無根のことです。酒や砂糖を嗜むのが罪過ですなら、あゝ神よ、惡人共を助けさせたまへ！若し齡を取つて快活なのが罪惡ですなら、宿屋の亭主なんか幾人も〳〵地獄へ墮ちんけりやなりません。若し肥つてるのが憎むべきなら、埃及王の瘦牛共は可愛がられなけりやなりません。いゝえ、御前、お父さま、ピ

ートーを追放して下さい、バードルフを、ポインスを。けれどもあの善良なフォールスタッフは、あの親切なフォールスタッフは、あの忠誠なフォールスタッフは、あの勇敢なフォールスタッフは、齢取つてるだけに尙と感心なんですから、彼れは何時までも陛下のハーリーの親友に、傅役にしておいて下さい、あの肥つたジャックを追放して御覽なさい、それは世界全體を追放するもおんなじです。

王子　うん、承知した。追放して見よう。

此時奥にて戸を叩く音。

内儀とフランシスとは、急いで入る。やがてバードルフがあわてゝ出て來る。

バード　御前、御前！　町奉行がおッそろしく大勢の組下をつれて店口へやつて來ました。

フォル　えゝ、やかましいやい！……（王子に）さ、芝居を演ッちまはう。まだフォールスタッフの爲になら、幾らも辯護することがあるんだ。

内儀又出る。

内儀　大變ですよ、御前さま〳〵！……

王子　（快活に）へいィ！　へいィ！　そりやこそ惡魔が胡弓に騎つたぞ。……え、何が起つたい？

内儀　町奉行さんとお組下の大勢の衆が、家捜しをするッて、店口へ來てゝございます。通してもようございませうか？

王子うなづく。フォールスタッフあわてゝ

フォル　おい〳〵、ハル公、純金を贋物だなんてッちや不可えよ。お前は、本體は狂人らしいや、見たとこは然うもないやうだが。

王子　さうしてお前は本來の臆病者なんだ、本能なんか持出すまでもなく。

フォル　其大前提は忌避せざるを得ないね。　いや、其町奉行どのを忌避するといふのだよ。　奴をお前が忌避すりやァ可し、忌避しないとなると、奴め入つて來るだらう。　すると、おれも同じ因果車のお相伴だ！　お多分に洩れないで、此首根ッ子を縊られっちまふだらう。

王子　（フォールスタッフに）さ、早く、その壁代の蔭へ隱れっちまひな。……他の者は、二階へ〳〵。……さ、清淨な根性の、正直な面の者だけ殘つてろ。

フォル　さういふものを持合せた時代もあつたつけが、もう昔になっちまつた。だから、隱れるんだ。

壁代の蔭へ潛り込む。

王子　町奉行を呼んで來い。……

王子とピートーだけを殘して皆々入る。町奉行、擔夫を伴れて出る。

奉行　（奉行に）ところで、わたしに用とは何です？　御前、失禮御免下さいませう。　只今大騷ぎをしまして、或三四人の者を、たしかに此家へ追込んだのでございます。

王子　どんな奴らを？

奉行　其中の一人は、誰でもよく存じてをりまする、大きな肥つた男でございます。

擔夫　脂肪の塊りのやうな男でございます。

王子　其男なら、こゝにやァゐないよ、大丈夫。　丁度今わたしが其男を使ひに遣つた。　町奉行、わたしが約束します、明日の午餐時に、彼男を足下なり、何人なりの處へ差出しませう、如何いふ罪科があるのだか知らんが。　だから、今日は引取つて下さい。

奉行　承知いたしました。　二人の紳士が、彼等の爲に、三百マルクを强奪されま

したのでございます。

王子　然ういふことをしたかも知れん。いよ〳〵彼男が其人々を剝いだとすれば、其罰を受けんけりやなるまい。ぢや、さやうなら。

奉行　ではもう今晩は！　御機嫌よろしう。

王子　もう朝だらう？

奉行　はい、いかさま。もう二時でもございませうか。

代官と擔夫とは會釋して入る。

王子　あの脂肪のお化けめ、セント・ポール院ほどに見知られ切ってゐやがる。……おい、奴を呼び出しな。

ピート　フォールスタッフ！（と大きく呼びながら、壁代を引分けて見て、王子に）壁代の蔭で寢込んぢまつて、馬のやうな鼾をかいてまさ。

王子　どうだ、その息づかひは！　衣嚢を探して見な。（ピートー衣嚢を探る）。何

ピート　が有つた？

王子　紙片ばかりでございます。査べて見な、何だか？……讀んで見な。

ピート　（讀む）

一、鷄肉　一斤……二志、二片

一、注汁（醬油）　四片

一、酒　二升五合　五志、八片

一、鯷並にお夜食後のお酒　二志、六片

一、麵麭　半斤

王子　お、呆れたなァ！　どうだ、此おッそろしい酒の量に對して、麵麭はたッた半斤だぜ！　まだ他に何か有るなら、しまッとけ、都合の好い時分に讀んで見るから。　さうして午時まで寢かしとけ。　明けたら予は朝廷へ往く。きッと衆人が戰に往かなくちやならんことになるだらうが、汝にや名譽の位置を貰つてやる。　此（とフォールスタッフへ思入して）肥つちよには、歩兵隊長の職を貰つてやらう。　十二時間も駈足をさせりやァ、奴め平伏ッちまふだらう。……奪つた金は、利子を添へて、拂ひ戻すことにしよう。　朝は早く起きて來てくれ。　ぢや、さよなら、ピートー。

ピート　ぢや、お寢みなさいまし。

入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

第三幕

第一場　ウェールス國の都會バンゴア。　副監督の第。

熱拍車（ホットスター）ヘンリー・パーシーとウーセスター伯トマス・パーシーとマーチ伯エドマンド・モオチマーと　モオチマーの　舅オーエン・グレンダワー出る。

モオチ　此等の條件は、いづれも正當である。　又此手合も信頼するに足ります。要するに、幸先が頗るよろしい。

熱拍　モオチマー卿にも、グレンダワー君にも、御着席を願ひたい。……ウーセス

ターの伯父さんにも。……くそッ！　つい地圖を忘れて來た。

グレン　いや、地圖なら爰に在ります。　お掛けなさい、バーシー君。　ねえ、お掛けなさいよ、熱拍車……貴下の其「熱拍車」といふ名を、あのランカスター（ヘンリー四世）が口にするたびに、頬が蒼ざめて、ふとい溜息をして、貴下を天へ遣りたがつたのですよ。

熟　さうして貴下を地獄へね、オーヱン・グレンダワーといふ名を聞くたびに。

グレン　（傲然と得意げに）そりや無理もないと思ひます。　わたしが生れた其日には、大空一面に、炎々と燃え立つ篝火のやうな種々の光り物が現れ、わたしが產聲を揚げると同時に、此堅牢な大地の基礎が、恰も臆病者のやうに、戰き震つたと言ひますから。

熟　（冷然と聞流して）だつて、そりや何でせう、若し同時刻に貴下の母さんの猫が仔を生んでも震動したでせう、貴下が生れなくつても。

グレン　いゝえさ、わたしが生れると同時に、地球が震動したといふのです。

熟　いゝえね、地球とわたしとでは、大分料簡が異つてるといふのです、若し貴下を恐れて震へたり何かしたのなら。

グレン　（尙かたくなに）大空一面が火となつて、大地が震動したんです。

熟　（尙ます〳〵冷然と）あゝ、ぢや、大地の奴、その大空が火になつたのを見て震えたのでせう、貴下の生れたのを怖がつたのぢやァない。　自然界も時々病氣に罹つて、奇怪な爆發をやらかしまさァね。　一ぱいに內容を詰め込まれてるので、どうかすると地球めが腹痛に惱されまさ、始末に行かない風が胎內に溜つたりなんかするとです。　そいつが脫出しようとして、婆アさんの地球を揉立てるもんだから、苔蒸した城や塔やが顚覆へる。　貴下の生れた時にも、祖母さんの地球が、恰ど其持病を起してゐた時かなんかで、震えたのでせう。

グレン　（怫然としたが、漸く自ら制して）バーシー君、大概の者にならば、そんな異論を言はせては置きません。　失禮だが、もう一度言ひます、わたしが生れた際には大空一面に光り物が現れ、山羊が山々から駈出し、野にゐた家畜類も、不思議にも、駭き悸えて、わめき騒いだのです。　既にそれらの前兆によつて自分が非凡の人間だといふことが豫期されてゐたのでしたが、世に出てからの閲歴もまたわたしの尋常人でないことを證してゐます。　英國と蘇國とウェールスの海岸に雷の如く打寄せてゐる荒浪に取圍まれてゐる者の中で、假にもわたしを弟子と呼んだり、彼れに敎へたと言つたりし得る者が何處に在ります？　苟も、女人の胎から生れた者で、此神變不思議な祕法祕術の實驗に於て、假にもわたしと拮抗し得る者があるなら、伴れておいでなさい。

熱　（冷かし口調で）迚もそんなに上手にウェールス語を喋舌る者は無いでせう。

あゝ、肚が減つて來た、食事にしませう。

モオチ　（はら〳〵して小聲で）これ〳〵、バーシー君！　好い加減になさらんと、あの男狂氣になつちまひますよ。

グレン　（いよ〳〵眞剣になつて）わたしは大海原から精靈共を呼び寄せることも出來る。

熱　そりやわたしにでも出來る。　だれにだつて出來る。　だが、奴等が來ますか、實際？　あんたが呼んだ時に？

グレン　わたしは貴下に惡魔を使役することを敎へることも出來る。

熱　わたしはまた、隨分其惡魔に赤い顏をさせることも出來る、眞實を言つて。そら、「眞を語つて惡魔をして恥ぢしめよ」でさ。　若し足下に奴を呼出す神通があるなら、伴れておいでなさい、わたしは、誓つて、赤ッ恥をかゝせて、追拂つてくれるから。　おゝ、貴下もねえ、生きてる以上、眞の事を言つて、

惡魔めに赤い顏をおさせなさいよ！

モオチ　これ〳〵、もうそんな詰らん議論はお止しなさい。

グレン　（ます〳〵眞劍に）三度までもヘンリー・ボリングブロック（四世王）がわたしを征服しようと試みたが、三度までもあのワイ河やあの砂底のセヴーン河から、何の得る所もなく、無一物で、さん〴〵雨に撲たれて、這々の體で、本國へ退却に及んだ。

熱　さん〴〵雨風に打たれ、而も無一物で、這々の體！　よくまァ癒にとつかれなかつたねえ！

グレン　（じつと自ら制して、話頭を改めて）さァ、こゝに地圖があります。　では、お互ひの權利を分配しませう、先刻定めた三箇條に隨つて。

モオチ　副監督は、至極公平に、同等に、三分せられたと考へます。　トレント（河名）から此セヴーン（河名）までの英國、卽ち南と東とが手前の分で、すべて西の方面、卽ちセヴーン河岸以西のウェールス並びに其領域内の沃土一圓はオーエン・グレンダワーの有。　バーシー君、貴下へは、トレント河から向うの、殘つた北方全部。　で、三重の條約書を起稿して今夜のうちにお互ひに捺印を濟して、明朝、バーシー君、貴下とわたしとウーセスター卿とが出發しようといふのです。　豫定通り、貴下の御親父及び其率ゐてござる蘇國兵と、シュリュースベリーで一しよになるために。　舅グレンダワーはまだ少々準備が整ひかねてゐますが、此十四日間は、必ずしも急いで來て貰ふにも及びません。....（グレンダワーに）其間に貴下は借地人や親族や同志や附近の者共をお集めなさることが出來ませう。

グレン　もちつと早く諸君と御一しよになれるだらう。　婦人たちはわたしが警護して參ることにしませう。　さしあたつては、わざと暇乞をしないで、竊と出掛けなさらねばなるまい。　で無いと、妻女たちとのお別れは雨降騷

熱

ぎで大變であらうから。

（此間類りに地圖に見入つてゐたが不平さうに）此バアトンから

北のわたしの分は、貴下たちのと同等とは思はれない。御覽なさい、こゝへ此河が廻り込んで來てゐて、わたしの領分の一等好いとこが、大きな怪しからん半月形に削り取られッちまつてる。こゝッとこで此河を堰ッちまつて貰はう。さうすりや、あの立派な銀色のトレント河が爰に一新流を形成つて、好い具合に流れるだらう。如是風に、いやに刳つて、曲り込ませないやうにしたいねえ、肝腎の山峽の好い地面を取られて堪るもんぢやァない。

グレン　曲り込ませないやうに？　そりや是非曲り込みますよ。さういふ地形なのですから。

モオチ　さやう、（熱拍車に）だが、ま、御覽なさい、奴（トレント河）は流れ〳〵てわたしの方へも曲り込んで來て、他方に對して同樣の利益を與へてゐる。即ちそつちで貴下から奪つたゞけの地面を、こゝで償つてゐるといふもので

す。

ウーセ　さやう、が、少々の費用をかけりや、そこで此河の流れを轉ずることは出來よう、すると、此北方に、これだけの半月形の地面が殖えて、河は眞直に、好い具合に流れることになる。

熱　然うして貰ひたいねえ。少し費用をかけりや出來る。

グレン　わたしはそんな風に變るのは好まない。

熱　好まない？

グレン　好みません。貴下だつて强ひてとはいふまい。

熱　だれが不可いと言ひます？

グレン　わたしが言ひます。

熱　ぢや、わたしに解らないやうにお言ひなさるが可い、ウェールス語で。

グレン　いゝや、英國語で言ふことが出來ます、貴下たちと同じに。わたしは英國

の朝廷で教練を受けた者だ。幼少の頃、竪琴に合せて歌ふ小唄を、可憐な小唄を幾らも英國語で韵や平仄といふ粧飾までも整へて綴つた。さういふ藝は、決して貴下なぞには出來んことだ。

熱　出來なくつて却つて此上もない幸福だ。そんな月並調の小唄作者なんかになる位ゐなら、小猫に生れ代つてニヤオとでも鳴いたはうがましだ。眞鍮の燭臺を只今旋盤で製造中てのを聞いたり、油無しで車の輪をぎり〳〵廻すのを聞いたりしたはうがましだ。まだしも其はうが齒を浮かさない

や、いやに氣取つた拙唄なんかよりやァ。　疲勞馬のよた〳〵よろしくと來た日にや、やりきれないからねえ。

グレン　（じッと自ら制して、蟲を殺して）では、トレント河を廻流させることにしませうよ。

熱　どうでも可いんだ。（獨語のやうに）實際立派な身方だと思やァ、其三倍の領地だつて、喜んで與れてやる。　けれども取引である以上、毛一筋の九分の一の爲にだつて、一歩も讓らないぞ。……約定書は出來ましたか？　もう出掛けてもいゝのですか？

グレン　月が佳いから、夜中にお出掛けもよからう。　どれ、急いで書記に書かせませう。　序に御出發の事を妻女たちへ知らせませう。　あゝ、女が狂人のやうにならねばよいが、一圖にモオチマーのことを思つてゐるから。

グレンダワー　入る。

モオチ　ねえ、バーシー君、困るぢやないかね！　あんなに舅に逆つちやァ。

熱　どうも爲樣がないよ。　つい癪に障るんだからね！　土鼠だの、蟻だの、寢惚仙人のマアリンだの、其奴の豫言だのと喋舌り立てられた時分にやァ！　龍だの、鰭のない魚だの、翼を切られた獅鷲だの、羽拔の鴉だの、臥てる獅子だの、立つてる猫だのて言ふ、到底信ぜられない瞞着を夥多疊み掛けられた時分にやァ！　實際、昨夜なんか、少くとも九時間といふもの俺を引附けといて、平生使つてるとかいふ種々な惡魔の名を竝べ立てたんだよ。「ふん、成程々々」なぞと言つちやァゐたけれども、其實、ちッとも聽いちやゐなかつた。　おゝ、彼れァ實に焦れッたい男だ、疲れ馬に乘つたよりも、お喋舌り嬶に捉つたよりも、くすぶり小屋中へ閉込まれたよりも。　乾酪と太蒜だけ持つて、風車の中で暮したほうがましだ、あの男の話を聞くよりゝ、よしんば文明國の立派な別莊の中で、旨い物を食ひながら聞くにして

もだ。

モオチ　だが、あの仁は、實際、立派な紳士ですよ、非常に博く書を讀んでもをり、又不思議な神通力を得てをつて、獅子のやうに勇敢でもあれば、駭くほどに親切でもあれば、又印度の鑛山かと思ふやうに、金銀を惜まない。　ねえ、バーシー君、實際、鼻は貴下の氣質を非常に尊敬してゐるのです、だからあんなに貴下が逆つても、決して例のやうには腹も立たないでゐる。　全く自制してゐるのです。　實際、貴下がしたやうに彼の仁に突掛つた者で、危險な叱咤を經驗しなかつた者は、曾て一人もないのです。　どうかもうあんまりあゝいふことをなさらんやうに。

ウーセ　（熱拍車に）ねえ、ほんとに、貴下はあんまり皮肉過ぎて宜しくない。　貴下がこゝへ來てから、何度あの仁の堪忍袋を切らせかけたか知れない。　其わるい癖を是非直すやうになさい。　稀には、それが爲に、偉くも勇敢にも大

膽にも見えることもあるが……たかゞそれだけの效能で……概して、短慮とか、無作法とか、自制力の缺乏とか、高慢とか、倨傲とか、自負とか、侮蔑を失ひ、他に美德があつても、それがそれらの爲に汚されて、折角の賞讃をとかの徵候になるのみだから、それらの惡癖が附いて廻ると、とかく人望剝奪されてしまふ。

熱　成程、御もつともです。　せい〳〵禮儀や作法を御大切になさいまし。あ、妻君連が來ました。　暇乞をしませう。

ゲレンダツー婦人連を伴ひて出る。

モオチ　こればかりは實に焦ッたくて腹が立つ。　妻は英語が話せないし、わたしはウェールス語が駄目だ。

グレン　（モガチマーに）我女は泣いてゐます。　貴下に別れともないのです。　彼女は、軍人になつて、戰場へ往きたいと言ひます。

モオチ　お父さん、彼女も伯母のパーシーも、すぐに貴下のお侶をして後から來るのだ、と彼女におつしやつて下さい。

グレンダワー其女のモオチマー夫人にウェールス語で何か話す。夫人もウェールス語で何か答へる。

グレン　（モオチマーに）彼女は自暴になつてゐるのです。我儘な沒分曉子めが、幾ら說得しても駄目なのです。

此時夫人何事かをウェールス語で夫のモオチマーに話す。

モオチ　お前の其目付はよく解るよ。その二つの小ちやな碧空からお前がぽたぽた降せる可愛らしいウェールス語だけは、わたしにもよく解る。人目が無けりやァわたしも其同じ語で返辭がしたいんだけれども。……

夫人又ウェールス語で何か言ひつゝ、接吻する。

お前のキッスは解るよ、わたしのも解るだらう。斯ういふのが身に染みる

話といふのだ。だがねえ、わたしァお前の國の語を覺えッちまふまでは、決して怠け者にやならんよ。お前の口から聞くと、ウェールス語が高尙な格調で出來てゐる小唄かなんかのやうに思はれる。夏の四阿か何かで、美しいお妃さんが、自身の琵琶に合せて、なつかしらしく歌つてゐるのかと思ふよ。（と言ひつゝ泣く）。

グレン　（モオチマーに）これ〳〵、あんたがそんなに泣くと、彼女は狂人になつてしまふ。

夫人又ウェールス語で泣く〳〵何かいふ。

モオチ　おゝ、こりや全然解らない！

グレン　（慰めて）彼女は貴下に「茂りに茂つてゐる葭の上へ横になつて、彼女の前垂の上へ頭をお載せなさい、貴下の氣に入るやうな唄を歌ひませう」と言つてゐる。さうして「貴下の瞼へは睡眠の神を宿らせて、快く眠たくなるや

うにして、夢現の境を恰ど夜晝の境、卽ちあの日の神の金の車が方に東方から軋り出ようといふ、つい直前の時刻のやうに感ぜさせてあげたい」と言つてゐる。

モーオチ　わたしは喜んで其唄を聽かせて貰ひませう。　其間には約定書の淨書も出來るでせうから。

グレン　さうなさい。……其合方を奏する樂人共は、（俄に態度を改めて）たとひこゝから三千里も離れた中空にぶら下つてゐようとも、忽ちこゝへ呼寄せよう。

熱　すわつて聽いておいでなさい。

（例の冷かし口調で）さァ〳〵、ケート、お前は横になることの名人だ。　さ、早く早く、頭をお前の前垂へ載けたいから。

熱夫人　ま、氣まぐれな！

このうち何處よりともなく音樂が聞えて來る。

熱　惡魔め、ウェールス語が解ると見えるな。　中々巧いや音樂が、實際。　こいつァ不思議だ、奴らァ中々〳〵輕輕な氣まぐれもんだなァ。

熱夫人　ちやァ、貴下なんかは尙と音樂者でありさうなもんですねえ、氣まぐれだらけなんですから。　さ、肅としていらつしやい、あの奥さんがウェールス語でお歌ひなさるんですから。

熱　おれャ寧そ牝犬御前か何かが愛蘭語で吠えてくれりやァ可いと思つてる。

熱夫人　お頭を破つてもいゝのですか？

熱　いけない。

熱夫人　ぢや、肅としていらつしやい。

熱　いけない、それも。　そりや女の惡癖だからね。

熱夫人　ま、どうしたらよからう！

熱　なァに、一しよに寢かせさへすりや可い。

熱夫人　え、何ですッて？

熱　しッ！　歌ひ出した。・・・・

モオチマー夫人ウェールス語の小唄を歌ふ。

さ、ケート、おれにも一つ聞かせてくれ。

熱夫人　わたし、眞、いやでござんすよ。

熱　眞、いやだと！　おい〳〵、ケート、そりや宛然菓子屋の内儀といふ口吻ぢやないか？　「眞、いやでござんす」だの、「斯うして生きてます通りに」だの「神さまが直して下さりますによつて」だの、「晝間のやうに慥かに」だのと、フィリスベリーより向うへは踏出したこともないやうに、そんな猫撫聲の誓言をするのか？　おい、ケート、もつと貴婦人らしく、口端ッたいやうな誓言をいひな、「眞」なんて、そんな胡菽入り生姜糖的の文句は、あの祭日の天鵞絨飾りの町人共の專賣にしときな。・・・・さ、お歌ひ。

熱夫人　わたしは歌ひません。

熱　歌は裁縫師になるには一等妙だし、駒鳥の教師になるにも都合が好いぜ。約定書が書けたら、此二時間以内に出掛けるんだ。だから、若し來たかつたらお出で。

と言ひ捨てゝ入る。此うちにオモチマー夫人の唄終る。

ゲレン　さ、さ、モオチマー。貴下は氣長過ぎる、バーシー君は氣短か過ぎるが。・・・もう約定書が書けたらう。調印をするだけだ、それが濟めば、すぐに出馬だ。

モオチ　はい〳〵、承知しました。

みな〳〵入る。

第二場　ロンドン。王宮内。

四世王、王世子ウェールス公ハーリー及び其他出る。

王　諸卿、席を避けて下さい。ウェールス公と少々内談をせねばならんから。しかし近くにゐて下さい、程なく用があるから。……

公卿ら入る。

王は、形を改めて、王子に對つて、

或は上帝の思召かも知れない、予の行爲中にお怒りに觸れることがあつて、豫め御内定遊ばされて、我骨肉を以てして、予に報復と懲罰とを下されるのであるかも知れない。お前の行動を見聞くにつけて、予は、お前は、全く天が予に烈しい罰を下される爲に、豫め選びおかせられた者だと信ぜ

ざるを得ない。さうでなくて、どうしてあんな無法な、卑劣な、下等な、淺ましい行動をしたり、あんなくだらん道樂に耽つたり、あんな野卑な友達と同輩交際をしたりすることが出來ます、堂々たる王家の嫡流たる身分でありながら？

王子　失禮でございますけれども、わたくしは其お叱りに對しては、悉くそれを清淨に申し開きがしたいのでございます、大部分は覺えのないことであると申しても差支ないと信じてゐますから。けれども、つまり、是れだけの御赦免を願ひます、兎角その、上に立つてお在の方は、卑劣な阿諛諂笑の徒輩から針小棒大の噂をお聞きにならざるを得ないのです、ですから、半ば以上、それが原因でありますけれども、わたくし自身も、年の若い爲に、多少放縱い行動をしたといふ事實もあります、ですから、それを正直にお詫しますから、どうぞお赦し下さいますやうに。

王　あゝ、神よ、どうかお赦し遊ばしますやう！……だが、一體、どうしたといふのだ、パーリー！　先祖代々以來曾て例のない奇怪な方角へばかり心を飛ばすといふのは？　議會に於ける職權をもお前は彼の粗暴な一擧の爲に失つてしまつて、今は弟（クラレンス公）がお前に代つてゐる。　のみならず、王族も廷臣も、擧つてお前とは交際をしない。　たれも彼れもお前の將來には絶望してしまつてゐる、一人として、もうお前は駄目だと思つてゐない者はない。　思ふに、予とても、若し妄に民衆に接觸して、面を見知られ、平凡な、安價な者とされてゐたなら、輿論が予に王冠を戴かせるやうなことはなかつたでもあらう、彼等はやつぱり故の王冠の持主に忠勤を盡し、予は何等の名聲もなく、位もなく、出世しさうにもない男として、外國に放浪してゐたでもあらう。　ところが、稀にしか顔を見せなかつたので、動けば則ち彗星のやうに、世人が駭いて詠めた。　で、奴らは其子供らに對

つて「彼れが其人だ」と言つた。　或は「え、どこに、どれがボリングブロックだ？」なぞと叫んだ。　さうして、其際、予は有りッたけの愛相を天上から盗み出して來て、力めて謙遜を粧つた。　それが多數者の悅服を得た所以であり、歡呼喝采を博した所以である、時の正統の王を目前に据ゑて置きながら。　斯うして予は、常に自分を新鮮なものにしておいた。　予は身體を法王の大禮服が、容易に見られんから、驚異の念を以て仰がれるやうに、只稀にのみ目覺しく現すやうにしたから、其稀な爲に、非常に莊嚴に感ぜしめた、大祭典か何ぞのやうに。　輕卒な王は、淺薄な割間共や線香花火のやうな小才子らと一しよになつて、跳廻るから、すぐに燃え切ッちまふ。　ちよこまかした阿呆共と一しよになつてゐるために、威が落ちる、其立派な名は其奴らの侮蔑によつて汚される。　身分をも思はず口穢い小僧の嘲りをも寛容する、まだ髭も生えんやうな奴らのくだらん駄洒落の敵手になる、

裏店や露路へも出入する、すつかり下司仲間の人間になつてしまふ。然う毎日々々人目の曝し物になつてゐるので、民衆は蜜に壓いて、遂に甘味を厭がるやうになる。然うなると、ほんの少し多いのが多過ぎてならんといふことになる。で、彼れが稀に出掛けても、もう六月の郭公だ、だれも耳は傾けない。よし見るにしても、とうに飽いたといふ目付で見る。稀に輝く大日輪のやうな威嚴者を仰ぐ時のそれとは異ふ。眼蓋を垂れて眠たさうにして見る、恰ど仇敵を見る時の澁面といふ格だ、もう存分見飽いた奴だといふ風に。ハーリーや、お前が正に其境界に立つてゐる。お前は、王子たるの特權を、下等な交際の爲に、失つてしまつた。だれの目も、もうお前を見飽いてしまつてゐる。予の目だけが、どうかもつと多くお前を見たいものと願つてゐた。其目めが（と言ひかけて涙を拭ひつゝ）馬鹿な奴で、予の本意ではないのに、女々しくなりをつて、つい予を盲にしてしまふ。

王泣く。王子も流石にしんみりとなる。

王子　これからは、お父さま、きッと注意いたします。

王　今日只今までのお前は、たしかに、あの時分のリチャード（前王）宛然だ、予が佛國から攻入つて來て、レーヴンスバアクへ上陸した時分の。あの頃の予に當るのが、今のバ

ーシーだ。　そこで、たしかに、あのバーシーの方が王世子の影坊師たるに過ぎんお前以上に、王位繼承の主張力を有つてゐる。　何故といふに、彼れは、權利は勿論、權利らしいものをさへも有つてゐないでゐて、それでゐて、軍馬を驅催して、獅子の猛しい頑ひにも刃向かはうとしてゐる。　さうして年齡はといふと、お前とおっつかっつで、老年の貴族や高齡の僧官らをひきゐて、四肢を痛める重い鎧を引掛けさせて、殘酷な戰爭をさせようとする。　彼れは有名なドーグラスと戰つて、既にもう不朽の名譽を得たちやアないか？　彼れの大功勳は、彼れの猛烈な侵擊や勇戰の話は、多數の武人階級の無上の名譽話になつてゐる、基督敎國の全部に亙つて。　あの熱拍車は、襁褓中のマーズともいふべきあの幼軍神は、三度までも戰つてドーグラスを敗つて、一度は擒にして、放免して、さうして身方にした。　それは、奴に予に對する滿口の挑戰を叫ばせて、我王座の平和と安寧を震動させよう爲だ。……それから、此事をお前如何思ふ？　と言ふのは、バーシーとノオサンバランドとヨオクの大監督とドーグラスとモオチマーとが今度協約して謀叛をした。……（といひかけて歎息をして）だが、何の爲に、如是ことをお前に話すか？……なう、ハーリー、予の敵の事をお前に話したつて爲樣がないわけだ、お前がその、予の一等身近な、一等重大な敵なんだからなう。　お前は、卑劣な、氣まぐれな、臆病な根性から、隨分バーシーの配下にもなつて、却つて予に刃向ひさうなこつた、彼奴の尻に尾き廻つて、彼奴の顰面に服從しさうだ、墮落さ加減を見せるために。

王子　（慨然として）そんな風に考へて下さいますな、決してそんなことはしません。　上帝、どうか、これ程までに陛下の心をわたくしから離れさせた奴等の罪をお赦し下さい！　わたくしは然ういふ不名譽を、きっとバーシーの首を斬つて、償ひます。　さうして、或名譽の凱旋の日に於て、大膽に、貴下

の子たるに恥ぢない所以を申し上げて御覽に入れます。　其時には、わたくしは血だらけの服を着て、血だらけの假面を被つて參るでせうが、それを洗ふと共に、過去の恥を洗ひ落してしまひます。　さうして、それは、何時だか知りませんが、今お話の其名譽の寵兒の、其勇猛な、天下の褒め者である熱拍車が、殆ど貴下の念頭にない他のパーリーと衝突つた時でありませう。　彼れの兜に止まつてゐる名譽よ、無數無量であれ！　おれの頭上の恥辱は二倍にも三倍にもなれ！　今に見ろ、あの北方の青年めに、其有りったけの名譽を、おれの此不名譽と交換させてくれる。　パーシーは、お父さま。彼奴はわたくしの代理人です、わたくしの爲に種々な名譽を募集してゐるのです。　今にわたくしが彼れに決算を命じます、其募集した名譽は、些少な少額の名譽までも引渡させます、渡さなけりや、奴の心臓から其勘定を裂いて取ります。（といひつゝ跪いて）上帝も照覽あれ、わたくしは

今それを誓約します。　若し神のお惠みによつて、それを履行し得ましたなら、わたくしの不品行の古疵を、どうぞ御寛大にお扱ひ下さいますやうに。　で無ければ、一命を終つて一切の債務を解くことになるでせう。　わたくしは此誓約の一部分をでも破る位ゐなら、一萬回も死んで御覽に入れます。

王　それでもう謀叛人が一萬人も死んだ！　以來はお前に命令權をも無上の信任をも與へる。……

士官　ブラント　出る。

ブラン　どうしたのだ、ブラントり？　大層急込んでゐるやうだが。

急いで申し上げねばならん儀がございます。　蘇國のマーチ伯（ジョールジ・ダンバー）から申し越しました所によりますと、ドーグラスと英國方面の叛軍が、本月十一日にシュリュースベリーで會合いたしましたさうでございま

す。若し各方面が手配り通りに運びましたなら、其兵力は未曾有の強大な叛軍だとのことでございます。

王　今日既にウエストモーアランドの伯が、我子ランカスター卿ジョンと一しょに出陣した。と言ふのは、もう五日も前に其事が知れてゐたからである。次の水曜日には、ハーリー、お前が出發する、木曜日には予が親ら進軍する。會合地はブリッヂノオスだ。ハーリー、お前はグロースターシャーを通過するが可い。さういふ段取にして見ると、今から約十二日目に全軍がブリッヂノオスで會する事になるだらう。種々すべき事がある。さ、あちらへ。人間がぐづ〳〵してゐると、天の利も地の利も弛んでしまふ。

入る。

第三場　イーストチープ街。酒亭猪頭軒。

フォールスタッフとバードルフと出る。

フォールスタッフ　バードルフ、此間のあの活動から以來、おれ情けねえ程に縮小りやしないかい？　痩せやしないかい？　凹みやしないかい？　だってよ、皮が弛んで、お婆アさんの長上被よろしくとなつてやがるもの。ジョン林檎の店ざらしてイ鹽梅式に皺が寄つてやがら。さうだ、今のうちに後悔しとかうよ、急いで、相應に健康でゐるうちに。もう直に元氣がなくなつてしまひさうだ。然うなると、後悔するだけの氣力もなくなるだらう。若し俺が教會の内部は如何な風だてことを記えてるやうになつたら、もうおちやんだ、胡椒だ、酒屋の馬だ。教會の内側！……あゝ、みんな友達の所爲だ！

バード　ジョンさん、さう焦々しちや、もう長持やァしませんせ。

フォル　全くだ、その通りだ。　おい、小唄でも歌つて、陽氣にならせてくれ。　おれァ本來は紳士らしい德の高い生附だつたんだ。　稀にしか怒鳥りやァしなかつた。　賭博なんか、たかゞ一週間に七度ぐらゐのもんだつた。　借りた金は返したよ、三四度も。　好い具合に、程よく生活してゐたんだ。　けれども今は滅茶々々だ、程も木瓜もあつたもんぢやない。

バード　そりや其筈でさ、あんまり度外れに肥つてゐなさるからだ、程も木瓜もありやしませんや。

フォル　な、汝も其面を改造しなよ、すると、おれも生活の改造をやるから。　汝は提督旗艦だ、其證據には挑灯をば船尾の高甲板に揚げてゐやがる。　と思つたら鼻だつた。　して見ると、汝は炎々燈の勳爵士だらう。

バード　(憤れて)わッしの面附が如何なだつて、あんたの御厄介にやなりませんよ。

フォル　ならんとも、決してならんよ。　寧ろ利用するよ、人は髑髏を、あの死の記念て奴をさへ利用するからね。　おれは汝の面ァ見るたびに、焦熱地獄を思ひ出したり、赤い服を着てたといふダイヴス(古代の富豪)を懷ひ出したりするよ。　奴ァそれを着込んでたんで、まるでその、火あぶりよろしくて風だつた。　少しでも汝に善人らしい所がありや、俺は其面を引合にして誓言してやらァな。　それは斯うだ。「天の輝く御使たる證據の此炎によつて」と。　けれども若し其面の火が無かつたなら、汝は駄目だ、まるで暗黑の兒になつちまつたらうぜ。　此間も、おれの馬を捉へようてんで、汝はあのガッヅヒルを駈登つて行つたらう。　あの時、おれは、ほんのこッた、汝を狐火か、で無けりや人魂だらうと思つた。　全く汝は陽氣な男だ、何故ッて、始終鼻先でお祭騷ぎをして花火を燃してるぢやァねえか？　おれャ、汝のお庇で、火把を一千マルクがた助かつたぜ、夜中に酒屋廻りをしても、汝と一

しよだつたから。だが、酒を汝に飲ませたのを差引くと、歐羅巴の一等不廉い手燭屋で燭火を買つたはうが利方だつたかも知れない。此二三十年おれア始終汝の、その「燒けず蜥蜴」に火を喰はせ〳〵して、養つて來たものだ。……神よ、どうぞ其御褒美を下さいまし！

バード　（いよ〳〵慣れて）えゝ、うるさいねえ、それほどおれの面が氣になるなら、お前さんの其士手ッ肚へ收藏んどいたらよからう。

フォル　眞平々々〳〵！　それこそ胸が燒けて〳〵爲樣があるまい。……

内儀　クイックリー　出る。

どうしたね、饒舌的牝鷄さん！　おれの懷中を掠つた奴を査べてくれたかね？

内儀　まア、ジョンさんてば、あんた如何お思ひなさるんですよ？　わたしゝとこに盜賊が飼つてあるとでもお思ひなさるんですか？　はい、搜しましたよ、

査べましたよ、夫も一しよになりましてね、一人々々に、丁年も、子供も、下男も。ところが、毛一筋の十分一だつて、わたしゝとこぢや失なつちやをりませんよ。

フォル　そりや嘘だ、内儀さん。現にバードルフが頭を剃られて、髮を大變失くしたらうぢやないか？　たしかにおれは掠られた。駄目だ、足下は女だよ。

内儀　（やつきとなつて）えゝ、だれが？　わ

たしが？　いゝえ、馬鹿お言ひなさい。　ほんに〳〵、わたしゝとこで以て、そんなことなんか、つひぞ言はれたことありやァしない。

フォル　駄目だよ、おれャ足下を知り切つてるからね。

内儀　いゝえ〳〵、貴下はわたしを知つちやゐません。　ジョンさん、わたしは貴下を知つてます。　ジョンさん、貴下はわたしに負債があるもんだから、喧嘩を吹掛けて、それをばごまかさうとなさるんだね。　貴下に着せるために、襦袢を十二枚も買つてあげたぢやないの？

フォル　粗末な、薄ぎたねえ奴だ。　あんな物ァ麵麭屋の嬶ァどもに與れてやッちまつた。　奴らはあれで以て篩を製へた筈だ。

女主　いゝえ〳〵、ありや一尺二志の和蘭リネンです。　ジョンさん、あんたには尙その他にお辨當の代や鳥渡飲の代が貸してありますよ、お金も貸してありますよ、二十四ポンド。

フォル　そりや（とバードルフを指さして）彼れにも關係がある。　彼れに拂はせるが可い。

内儀　あの人？　あの人は貧乏です。　一文なしでさ。

フォル　え！　貧乏だ？　あの面を見な。　足下はどういふのを金持といふんだ？　あの金光りの鼻なり頰邊なりを鑄させたら可からう。　おれァ一文だつて拂はねえ。　え、おれを小僧扱ひにしようてのか？　旅館に入つてまでも巾着切の用心してゐなけりやならねえのか？　祖父さんの記念の印の附いてゐる指輪を奪られッちまつた、四十マルクもする代物だ。

内儀　あらまァ！　わたし王子さまに何度も〳〵聞いてますよ、其指輪てのは赤銅だつて！

フォル　なに、王子が？　ありや碌でなしだ、懦弱漢だ。　くそッ！　奴こゝにゐりや、犬のやうに叩きのめしてくれる、そんなことを吐しやァがるなら。……

此時王子とビートー、半鎧にて進軍の歩調で出る。フォールスタフ忽ち手に持つてゐた短い棍を笛に擬して、吹く眞似をして進軍の歩調に合せつゝ、臆面なしに王子を出迎へて

バード　や、どうしたい、若い衆？　いよ〳〵其方風と定つたかい？　みんな出掛けなくちやならんのかい？

内儀　二人づゝ、二人づゝ、ニューゲート（監獄所）行きといふ鹽梅式に。（とつぶやく）。

王子　（急いで王子に敬禮をして半分泣聲で）御前さま、どうぞお聽き下さいまし。何だい、クィックリーの内儀さん？　亭主はどうしてるね？　わたしはあの仁は大好きだ、正直者だから。

内儀　御前さま、どうぞお聽きなすつて下さいまし。

フォル　そいつなんか放擲つといて、おれの言ふことを聽いて下さい。

王子　何だ、お前の言ふことてのは？

フォル　此間の晩、此壁代の蔭で寢てたうちにね、おれゃ懷中を掠られッちまつた。此家は掏摸兼業の淫賣屋になッちまつたんだ。

王子　何を失したんだ？

フォル　ハル公、吃驚しちやいけないよ。四十ポンドづゝの劵が三枚か四枚。それから祖父さんから傳來の印形附の指輪を。

王子　些細だ、たか〻八片の代物だ。

内儀　御前、然う申しましたのですよ、わたしも。御前さまが然うおつしやつたのを承はつてゐると申しましたんですよ。すると、御前、あんた樣の事を、それは〳〵酷く申し上げますんですよ、口ぎたない人でございますからね、あんた樣を棒で叩きのめすと申しましてすよ。

王子　え！　まさか？

内儀　これが嘘でございますなら、世の中に眞實も、正直も、女らしさもあつたも

のぢやございません。

フォル　汝には煮た梅干ほどの眞實もありやァしねえ。逃げかゝつてゐる野狐ほどの正直もあるもんかい！　へん、汝が女らしけりや、メイド・マリヤン（山賊の妻）はお代官の夫人になれらァ。　うぬ、此奴めが、うぬ！

内儀　なに、奴だッて？　奴とは何だよ？

フォル　なに？　奴てのは、その、何だ。　お有りがたくッてならねえ奴なんだ。

内儀　いゝえ〳〵、わたし、決してそんなその、お有りがたくッてならねえ奴なんかぢやありません。　わたしは眞人間の女房です。　そんなことをいふお前さんは碌でなしです……お士爵さんてことは、ま、別にしといて。

フォル　御婦人さんてことは、ま、別にしといて、そんなことをいふ汝は獣類だ。

内儀　どんな獣類だよ、此碌でなしが？

フォル　どんな獣類だ!?　ま、水獺だ。

王子　水獺だ！　どういふわけだ？

フォル　だつて、魚でもなけりや四脚でもない。　どう始末していゝか分らん代物だからだ。

内儀　そんなことを言ふなァあんまりです。　お前さんだつて、誰だつて、わたしをば好いやうにしておきながら、あんまりです〳〵！　（と泣き出す）。

王子　こりや内儀さんが道理だ。　彼れの惡口が酷過ぎる。

内儀　御前、あんたさまの事をもさん〳〵に申してをります。　此間もあんたに一千ポンドの貸しがあるなんて申しましたんですよ。

王子　おい、（とフォールスタフに）一千ポンドをわたしが足下に借りてるかい？

フォル　一千ポンドだつて？　百萬ポンドだよ、ハル公。　可愛がるのは百萬ポンドの價値だ。　お前はおれに可愛がられてゐるだらう。

内儀　いゝえね、御前、あの人は、あんたを碌でなしだ、今に棒で叩きのめしてや

ると申しましてすよ。

フォル え、バードルフ、おれが然ういつたかい？

バード はゝ、たしかに、さう言ひなすつたよ。

フォル （少しも怯ずに）さうさ、おれのあの指輪を赤銅だなんて吐しやゝ、承知しねえ。

王子 （すかさず切込んで）あゝ、赤銅だよ。　さ、どうする？

フォル （ちよつと狼狽したが、すぐに盛返して）だつてその何だ、お前が只の人間なら、承知しねえんだけれども、王子なんだから、まづ獅子の仔の唸るくらゐ[illegible]怖いや。

王子 なぜ獅子の仔と斷るのだい？

フォル まだ別に王さんて親獅子がゐるからね。　お前を親父さんほどに怖いとは思はないや。　それが逆でありや、「胴卷が千裂れるやうに！」と神さまに祈らァ。

王子 胴卷が千裂れた日にや、其臓物が悉皆膝の上へぶちまけられるだらう！　おい〳〵、お前のやうな虚言者はありやしない。　其肚中にや眞實や正直は形無しで、胃袋や腸ばかりが充滿だらう。　枕捜しだなんて、正直な女に言ひがかりをするなんて！　此放蕩者の、鐵面皮の、肥ッちやうの悪黨め、汝の衣嚢の中にや、酒亭の勘定書と息切れを防ぐための砂糖が一片分ばかり、他に何があるものか！　若し其他に、假にも損害があつたと言や、汝は大悪黨だ。　これでもまだ言ひ草があるか？　堪忍ならんなんて言へるかい？　おい、これでも恥ぢないのか？

フォル おい、ハル公、おい？　ねえ、アダムは、あゝいふ清い境界にゐてすら墮落したらう。　して見りや、邪念旺盛期のジャック・フォールスタッフだ、どうも止むを得なからうぢやないか？　此通り、人並以上の肉體を有つてるのだから弱點も多い筈だ。……ぢや、おれの衣嚢を掠つたのは足下だね？

王子　然うらしい噂だ。

フォル　内儀さん、お前は赦すよ。　さ、早く朝餐の准備をしてくれ。　亭主を可愛がつて、召使に目を掛けて、客人を大切にしな。　おれは、正當な理由さへありや決して無理は言はない。　もう全然機嫌を直してしまつた。・・・・おや、まだ？　まァさ、往きなてば。・・・・

内儀不平さうに入る。

さ、ハル公、朝廷の消息を聞かうぜ。　追剝一件はどういふことになつたね？

王子　こんども俺がお前の守護神になつてやつたよ、大圖體坊。　奪つた金は償ッちまつた。

フォル　あゝ、そりや詰らんこッた。　二度手間だ。

王子　親父と仲直りをしたから、俺ゃもう如何なことでも出來る。

フォル　ちや、「い」の一番に、まづ金庫を此方の物にするんだ、手なんか洗つてゐねえでね。

バード　御前、さうなさいまし。

王子　ジャック、お前を步兵隊長にしてやつたよ。

フォル　騎兵隊長のはうがよかつたになァ。　かうと、何處へ往つたら、盜みの巧手な奴がゐるか知らん。　二十二三ぐらゐの氣の利いた盜人が一人欲しいや！　情けねえほど無一物なんだからな。　しかし謀叛がおッぱじまつて結構だ、奴らは善人にしか迷惑を掛けねえんだから。　感心だ、大贊成だ。

王子　バードルフ！

バード　へい？

王子　此手紙を（と一通を出して）弟のランカスタト卿ジョンの許へ持つてつてくれ。これは（と他の一通を）ウェストモーアランド卿の許へ。・・・・

バードルフ二通を受取つて入る。

さ、ピートー、馬だ〳〵。汝とおれは中食前に三十哩も往かんけりやならんぞ。

ピートー心得て入る。

ジャック、明日の午後の二時までにテンプル・ホールへ來てくれ。あそこで職務を言ひ渡すから。金も、軍需品の注文書もあそこで渡す。國中が宛然燃え返つてゐる。バーシー一家の勢ひが熾んだ。奴らを叩き伏せなければ、こちとらが倒れなけりやならん。

フォル　素敵だ！　豪氣な世の中になつたぞ！……內儀さん、おい、朝餐だ〳〵！……（奥にて太鼓の音）あゝ、此酒亭がおれの陣太鼓だと好いのに！

入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

第四幕

第一場　シュリュースベリー附近の叛軍の陣營。

熱拍車（ホットスパー）とウーセスター　とドーグラス　と甲冑にて出る。

熱拍　全く敬服しました。體裁を飾る現代は、實際の事を有りのまゝに言ふのをさへ、戲辭だの、追從だのと、惡くいふのが定例ですが、若し然ういふ嫌ひさへなけりや、ドーグラス家の如きは、現代普通の武人型中に全く類のないものだと評せられんけりやならんのです。神よ照覽あれ、わたしは

追從は能う言はん。阿諛は大嫌ひです。げれども、實際、貴下に感服させられたぐらゐに感服させられたことは曾てないのです。此一言の嘘でないことを、どうか事實で試驗して下さい。

ドーグ　貴下は名譽事に掛けては王者です。が、どんな强大な人間をも、見事、わたしは敵にして御覽に入れる。

熱　けつこう。どうかさう願ひたい。……

使者書狀を持つて出る。

使　それは何だ？……（ドーグラスに）感謝に堪へません。

熱　お父上からの御書面です。

使　父から！　何故自身で來ないのか？

お出でになる譯には參りませんのです。非常に御重病なのでございます。

熱　誓言！　此緊急の際に、病氣なんかになつてゐてたまるもんか？　だれが代つて其兵をひきゐるんだ？　だれが親父に代るんだ？

使　委細は御書面にございいませうと存じます。

ウーセ　（使者に）なう、では、床に就いてをられるのか？

使　はい、手前が出かけまする前四日間御就褥遊ばして、ゞございまして、出立の際には、醫師た

ちが大變御心配申し上げてをられました。

ウーセ　あゝ、事態が安全になつてしまつてからだとよかつたに。今が最も健康でゐて貰ひたい時なのだ。

熱　（此間に書狀を讀み了りて）時も時、今時分弱つたり、煩つたりすなるなんて！大事の計畫の生血が、それが爲に、腐ッちまふ。其病氣が此處までも、此陣中までも傳染しッちまふ。家父の此書面によると、腹部の病ひの爲に云々……到底代理の手では、身方召集は覺束なくもあるし、且つは自分自身以外の者には、斯ういふ重大な危險な全權を委託することは出來ないと思ふと言つてゐます。けれども、斯ういふ大膽な提議もしてゐます。集つただけの小勢で以て、運を天に任して、進軍しちやどうだと。もう王は吾黨の企畫を悉く聞知してゐるに相違ないから、今更逡巡すべきでないと言つてゐます。……伯父さんは如何お考へです？

ウーセ　お父さんの發病は大變な損害だ。

熱　全く痛手です。手足を切落されたんだ。けれども、其實、決して、そんなことはない。家父の今度出て來ないのは、却つて可いです。……有りッたけの財產を一度の博奕に賭けッちまふのは好いこッちやないでせう。あぶなかしい一か八かの一擧に、大切の寶を賭けッちまふのは、聰明なやり方とはいへますまい。希望のどん底を、つまり、我黨の運命のとゞの局限を見ッちまふ譯になるんですから。

ウーセ　いかにも然ういふ譯になる。現在のまゝだと、再擧の餘地がある。將來の望みを賴みとして、大膽に投財することが出來るといふものだ。却の慰めがあるから。

熱　隱れ家がある、逃込むとこが、萬一惡魔と不運とに睨まれて、皮切の一戰に敗れたとしても。

ウーセ　が、實は、お父さんが來てゐてくれたはうが可いのだ。　企畫の性質からいふと、二手になるのは妙でない。　お父さんの來ない理由を知らん者は、或は此度の企畫に不贊成なために、又は勤王心のために、又は賢明なために、來會しないのだと解するかも知れない。　さういふ臆測は、恟々してる輩の心を轉ぜしめて、身方の者に疑惑を抱かしめる虞れがある。　と言ふのは、正義獻身を標榜する我黨は、成るべく嚴密な穿鑿を招かないやうにしなけりやならん、隙間を拵へて、内輪を見透かされ、何のかのと批判されないやうにしなけりや不可ん。　お父さんの不參は、幕を開けて、何にも知らないでゐた者に、化物の正體を見せるのだ。

熱　それ少と大げさです。　わたしは家父の來ないのを斯う利用します。　來ないために、却つて此一擧が光りを增し、名譽が增すんです。　一層勇敢な企畫となるのです。　と言ふのは、父が參加しなくつてすら、敢て一王國を

敵として戰ふのだから、父が加はれば、無論それを顚覆するのは容易だと、斯う人が思ふわけです。　まだ〳〵結構、まだ〳〵四肢五體共健全でゐ氣の持ちやう次第です。　蘇國人は、怖ろしいなぞといふ語は、曾て口にしたことがありません。

ドーグ

士爵リチャード・ヴアノン出る。

熱　おゝ、ヴアノン君！　ようこそ〳〵。

ヴアノ　手前の此御報道が、其御歡迎に背きませんければよいが。……ウエストモーアランド伯が、七千人强の兵をひきゐて、此方へ進軍中です。　王子ジョンも同時に。

熱　故障なし。　外に？

ヴアノ　それから、噂では、王自身も出陣したといふことです。　或は、强大な軍備を整へて、既に此方へ急進中だともいひます。

熱　それも望む所です。　奴の戀領息子は何處にゐます？　あの脚の速い、氣まぐれのウェールス公爵は？　浮世を三分五厘にしてゐた奴の仲間は？

ヴアノ　みんな武裝をしてゐます、みんな武器を携へてゐます。　みんな風に羽ばたく駄鳥のやうに飾り立てゝゐます。　水から上つたばかりの鷲といふ風に羽づくろひしてゐます。　金絲織の服は燦き渡つて敎會の偶像の如く、元氣は五月のやうに旺盛で、風采は盛夏の太陽の如くけば〳〵しく、若い山羊のやうに戯け廻り、若い野牛のやうにあばれ散らしてゐます。　パーリー王子の如きは、兜を眉深に被つて、腿甲を着け、いかにも勇ましく武裝して、さうして悠然と乘馬に乘られた姿は、翼のある使神宛然でした、これから天馬を操縱して、すばらしい乘馬術をやつて見せて、人間全體を魅し去らうとしてゐるかとも見えました。

熱　（性急に）もう澤山、もう澤山。　そんな賞讃は、三月の日光よりも有害だ、身

方の者が癇にとつかれッちまふ。　…さ、幾らでもやつて來やがれ。　犧牲のやうに飾り立てゝやつて來やがるこそ幸ひだ、あの火眼の女軍神へ、殺したてのほや〳〵て奴を供へてくれう。　マーズ神にも供へてくれう、あの軍神の耳元までも、血みどろの犧牲を積上げてくれう。　さういふ素敵な獲物がもう程なくやつて來ると聞くと、身體中の血が燃える。…さ、すぐ馬の乘試しをしておかう、あのウェールス公爵めの胸先へ、霹靂火のやうに、奴を乘掛けてくれよう。　パーリーとパーリーとが、馬と馬とを激しく駈け合せて、どちらかゞ死骸となつて落っこちない以上は、別れるこっちやないぞ。…あゝ、グレンダワーが來てゐると好いのに！

ヴアノ　まだお知らせすることがあります。　それは、途中で、ウーセスターで傳聞したことですが、グレンダワーは、此十四日間は、兵を集めることを能うしないといふことです。